

ライオンズ・スクール ライオンズクラブ入門

ライオン誌日本語版委員会編

2025年11月20日改訂



ライオンズ・スクール「ライオンズクラブ入門」●目次

第1章	ライオンズクラブとは2
	ライオンズクラブの創設とメルビン・ジョーンズ
	ライオンズクラブの目的
	日本にライオンズクラブが誕生
	受け継がれる奉仕の歴史
第2章	ライオンズクラブの会員8
	会員の資格
	会員の権利と義務
	例会
第3章	クラブ内の組織13
	重責を担うクラブ役員
	クラブ運営をリードする理事会
	活発な委員会はクラブの原動力
第4章	国際協会の組織18
	世界のクラブを統括する国際協会
	複合地区——複数の準地区で構成
	地区——各クラブの運営を円滑に
第5章	アクティビティ23
	グローバル重点分野とイニシアチブ
	視力
	献血
	青少年
	日本の代表的アクティビティ
	LCIF
付録	ライオンズ・カレンダー30
付録	ライオンズ用語集34

第1章 ライオンズクラブとは

ライオンズクラブ国際協会は200カ国以上に約140万人の会員を有する世界最大かつ最も活動的な社会奉仕組織である。ではライオンズクラブはどのように生まれ、何を目的にどんな活動をしているのだろう。第1章では、その最も基礎となる知識、ライオンズクラブの創設と創設者メルビン・ジョーンズ、ライオンズクラブの目的の他、日本におけるライオンズクラブ誕生を始めとするこれまでの歩みについて紹介する。

ライオンズクラブの創設とメルビン・ジョーンズ

ライオンズクラブは1917年、アメリカ・イリノイ州シカゴに誕生した。創設者メルビン・ジョーンズの夢の結実である。

創設者メルビン・ジョーンズ

メルビン・ジョーンズは1879年1月13日、アリゾナ州フォート・トーマスで生まれた。アメリカが西へと開拓を進め、先住民族と攻防を繰り返していた頃である。

ジョーンズの父は騎兵隊を指揮するアメリカ陸軍大尉だったが、アリゾナのアパッチ族の戦士・ジェロニモの逮捕により戦闘は終結、家族はミズーリ州セントルイスへ移ることになる。その後、ミシシッピ川をはさんで対岸のイリノイ州クインシーに転居。クインシーで法律を学んだジョーンズはシカゴへ出て保険会社に勤務、1913年に独立し保険代理店を開業した。

ライオンズクラブ創設

アメリカの工業化につれて急激に発展したシカゴでは、共に昼食を取りながら情報を交換し、チャンスをつかもうという会がたくさんあった。ジョーンズが誘われ入会した「ビジネスサークル」も、実業家によるそうした昼食会の一つだったが、彼は次第に、単なる社交と職業利益を目的とし



ライオンズのマザー・クラブと呼ばれる、後のシカゴ・セントラル ライオンズクラブの母体となったビジネスサークルの面々(中央が創設者メルビン・ジョーンズ)。シカゴ美術館前で

た会に満足出来なくなっていく。

「意欲、知力、野心によって成功している会員たちの能力を地域社会向上に活用させる、全米的な組織が作れないだろうか」

ジョーンズはアメリカ国内の類似のクラブに呼びかけた。1917年6月7日、これに応じたクラブの代表20人が集まり、シカゴのラサールホテルで最初の会議が持たれた。組織の名称として、ここに参加した一つのクラブの名前を取って「Association of Lions Clubs」とすることが決定。ライオンズクラブの誕生である。



ライオンズクラブ設立に向けた会議が開かれたシカゴのラサールホテル

同年10月8日にテキサス州ダラスで第1回大会が開催され、会則及び付則、目的及び道德綱領が話し合われた。クラブカラーも同大会で決定した。ライオンの体を彩る金色と王者の権威を示す紫である。

紋章の決定と国際的組織へ

紋章が決定したのは1920年のこと。200を超えるデザインの中からジョーンズが必要部分を組み合わせたものが原案となった。紋章にはLの字を真ん中に2頭のライオンの頭部が左右を向いて配置され、上部にLIONS、下部にINTERNATIONALの文字がある。2頭のライオンは輝かしい過去の歴史と未来を見つめ、Lは法 (Law)、自由 (Liberty)、労働 (Labor)、忠誠 (Loyalty)、愛 (Love)、生命 (Life)、そしてライオン (Lion) を象徴しているとされる。



紋章の決定と同年、創設から3年目にしてカナダにアメリカ国外最初のクラブが設立され、ライオンズクラブは国際的な組織となった。その後、1950年代、60年代を中心として国際的拡大を続け、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界中にライオンズクラブが結成されていった。

第二次世界大戦の戦時下にあってもジョーンズの信念は変わらなかった。「暗黒の時代にこそライオニズムが必要だ」と、帰還兵のために住居や復学などの面倒を見、戦火に焼かれたヨーロッパには膨大な衣類を贈った。ライオンズクラブの活躍は広く認められるようになっていた。

終戦直後の1945年、国連が非政府組織 (NGO) の憲章を作成するに当たり、依頼を受けた42の民間諮問団体の一つとしてこれに参加した。現在もライオンズと国連の関係は深く、毎年ニューヨークの国連本部や、スイス・ジュネーブとケニア・ナイロビにある地域事務所で、国連ライオンズ・デーを開催。多くのライオンズ会員らが参加している。

女性会員の参加と活動方向の転換

1987年、ライオンズクラブの未来へのかじ取りに大きな示唆を与える、重要な報告書が提出された。世界が急激に変わりつつある中でのライオニズムの将来について、未来学者アルビン・トフラ

一博士が主宰する選択的未来研究所に研究・考察を依頼したものだ。ここで示された、女性会員の戦力強化、視力保護への国際的奉仕活動の集中、世界的な青少年育成活動の展開などの勧告を受けて、ライオンズクラブは門戸を開いたばかりだった女性会員の活躍を促し、視力保護・失明撲滅を掲げた「視力ファースト」を立ち上げ、青少年の生きる力を育てる「ライオンズクエスト・プログラム」に着手した。ライオンズクラブはこの時定めた方向に向けて前進を続けた。そして2017年には創設100周年を迎え、次の100年に向けて更なる発展を期し新たな一步を踏み出した。

生き続けるジョーンズの信念

創設者メルビン・ジョーンズは1961年6月1日、82歳でその生涯を閉じた。1917年の創設以来、ライオンズクラブに捧げた44年間だった。ジョーンズの死後もライオンズクラブは地域社会で、また世界中で人道奉仕活動を行い、時代のニーズに伴って変化しながら発展を遂げてきた。しかし、現在そして未来にも「他人に尽くすことから始めるのでなければ、人生の大は成し遂げられない」というジョーンズの信念は変わることなく生き続けている。

ライオンズクラブの目的

ライオンズクラブの目的

- 世界の人びとの間に相互理解の精神をつちかい発展させる。
- よい施政とよい公民の原則を高揚する。
- 地域社会の生活、文化、福祉および公德心の向上に積極的関心を示す。
- 友情、親善、相互理解のきずなによってクラブ間の融和をはかる。
- 一般に関心のあるすべての問題を自由に討論できる場を設ける。ただし、政党、宗派の問題をクラブ会員は討論してはならない。
- 奉仕の心を持つ人びとが個人の経済的報酬なしに社会に奉仕するようはげまし、また、商業、工業、専門職業、公共事業および個人事業の能率化をはかり、道徳的水準をさらに高める。

前項で紹介したように、「ライオンズクラブの目的」は1917年、テキサス州ダラスで開かれた第1回大会で起草され、1919年の第3回大会で正式に決定した。アメリカ各地にそれぞれ存在していたクラブが、一つの組織となって活動を始める時に、力を合わせて達成しようと掲げた目的である。それがアメリカのみならず世界に受け入れられ、広がっていった。

モットー

「We Serve（われわれは奉仕する）」

このモットーは1954年、国際協会が募集したコンテストの応募作の中から、カナダ・オンタリオ州フォントヒル ライオンズクラブのステイブンソンの作品が採択されたものである。主語が「私」ではなく「われわれ」であるところにライオンズクラブの特徴がよく現れている。皆が力を合わせて人道奉仕を行う。助け合う。そういう組織のモットーである。

スローガン

「Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety（自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる）」

1917年の最初の会議でライオンズクラブの名称が決定した時、これはまだ百獣の王ライオンが象徴する強さや高潔さといったイメージを意図するだけのものであり、中には名称変更を希望する会

員もいた。しかし1919年に行われた第3回大会でコロラド州デンバー ライオンズクラブのライナルステッド・リッターが行った演説により、異議を唱える者はなくなった。

「LIONSのつづりは我々がアメリカ市民としての真の意義と基盤を持つことを広く国民に宣言するものです。すなわちLはLiberty、IはIntelligence、O、N、SはOur Nation's Safety、これらの頭文字を組み合わせたものです」

そしてこれが、ライオンズクラブのスローガンとなった。

協会の声明文

国際協会は使命声明文として「ライオンズクラブ、ボランティア、そしてパートナーが、世界中の人々の暮らしに影響を及ぼす人道奉仕と交付金を通じて、健康と福祉を改善し、地域社会を強化し、恵まれない人々に支援を提供するとともに、平和と国際理解を促進できるよう、力を与える」を、ビジョン声明文として「地域社会と人道奉仕におけるグローバルリーダーを目指す」を発表している。

国際会長テーマ

国際協会のモットーである「ウィ・サーブ（われわれは奉仕する）」。かつては各年度ごとに独自の国際会長テーマが設けられていたが、2017-18年度から「ウィ・サーブ」とされ、各国際会長はテーマに加えて、短いフレーズで自身の主要メッセージを打ち出している。

日本にライオンズクラブが誕生

1952年3月5日、東京ライオンズクラブが結成され、日本は世界で35番目のライオンズ国となった。東京ライオンズクラブをスポンサーしたのはフィリピンのマニラライオンズクラブ。フィリピンではまだ第二次世界大戦での日本の行為に対する禍根が残り、市民の反日感情は強かった。そんな中でのフィリピンのライオンズによる日本へのエクステンションは驚きに値するものであり、示された友情は大きな感動を生んだ。ライオンズクラブについて何も知らなかった日本人に、ライオニズムの神髄を示すに足る出来事であった。



1952年3月21日、ホテルテイト(現パレスホテル東京)での東京ライオンズクラブチャーターナイト(左)と同クラブのチャーター(上)

東京ライオンズ^{クラブ}の誕生後、神奈川県・横浜、兵庫県・神戸、大阪と、次々とライオンズクラブが結成され、1953年には302地区が誕生。初代地区ガバナーには日本ライオンズの誕生に尽力した^{りゅう}石川欣一（東京ライオンズ^{クラブ}）が選出された。日本の高度経済成長の波にも乗って、ライオニズムは^{りょうげん}療原の火のごとくに広がっていった。

1955年、第1回302地区年次大会が神戸市で開催された。1958年には会員数3,000人を超えてライオンズクラブ国際協会公式機関誌『ライオン誌』日本語版創刊。また同年、第2回アジア大会（現在の東洋東南アジア・ライオンズ＜^{オセアル}OSEAL＞フォーラム）が、東京で開催された。

クラブ数及び会員数は右肩上がりに増え続け、1962年には群馬県・桐生ライオンズ^{クラブ}が結成されて、全都道府県にクラブが存在することになる。翌1963年には会員数が3万人を超え、ついにカナダを抜いて世界第2位のライオンズ国となった。拡大を続ける日本ライオンズは1973年に10万人を突破、1992年には会員数17万人を記録した。

日本が初めて国際大会のホスト国となったのは1969年。東京で第52回国際大会を開催した。日本ライオンズ誕生からわずか10年の1962年にガバナー協議会は「国際大会を日本に招致しよう」と掲げて、国際協会及び世界のライオンズに対するPRを開始した。開催が決定すると着々と準備を進め、アジアで最初の国際大会実現にこぎつけた。その後、1978年の第61回国際大会が東京で、2002年の第85回国際大会が大阪で開催され、2016年には第99回国際大会が福岡で開かれて約3万8,000人が参加した。

日本ライオンズはまた、地域社会奉仕を始め、災害援助、青少年育成、献血運動、国際協調他、さまざまな分野で時代のニーズに応える奉仕を行い、多くの足跡を残してきた（詳細は第5章アクティビティで紹介）。

日本人の国際会長

日本のライオンズは国際的なリーダーも輩出してきた。1981年、アリゾナ州フェニックスで開かれた第64回国際大会で、^{ライオン}村上薫が東洋東南アジア地域では初の国際会長に就任した。村上国際会長は「ピープル・アット・ピース（みんなで築こう和の世界）」をテーマに掲げて世界各地を飛び回



日本人初、村上薫国際会長の就任式（1981年の第64回国際大会で）

り、ライオニズムを説く「行動の人」と呼ばれた。

1987年、台北で開催された第80回国際大会では、^{ライ}小川清司が国際第三副会長に当選した。日本から2人目の国際会長誕生が期待されたが、残念ながら第一副会長の任期中に志半ばにして逝去した。

2015年6月の第98回国際大会（アメリカ・ハワイ州ホノルル）では、^{ライ}山田實紘が国際会長に就任。「命の尊厳と和」をテーマに創設100周年を目前にした国際協会をリードした。

受け継がれる奉仕の歴史

創設100周年を迎えて

国際協会は2017年の創設100周年を奉仕で祝おうと、14年7月に「100周年記念奉仕チャレンジ」を開始。これは「ニーズのあるところにライオンズがいる」のテーマの下、2017年12月までに「青少年」「視力」「食料支援」「環境」の奉仕分野でそれぞれ2,500万人、計1億人に奉仕しようというチャレンジで、奉仕の受益者数は目標の2倍を超える約2億4,900万人となった。

国際協会は創設100周年に当たって次の100年に向かうビジョンを示し、それを実現させるための5カ年戦略計画「LCIフォーワード」を発表した。この計画では、2021年までに年間の奉仕受益者数を2億人にして奉仕のインパクトを従来の3倍に増やすという目標を設定。世界で増え続ける人道的課題のニーズに対応するためのグローバル重点分野として「糖尿病」「視力保護」「食料支援」「環境保全」「小児がん」の5分野を掲げた。世界の奉仕受益者数は2019-20年度に2億7,500万人を超え、LCIフォーワードの目標を達成した。グローバル重点分野は、2023年に「災害支援」「人道支援」「青少年」が追加され、8分野となった。

次の100年に向けて

2020年春から世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、ライオンズクラブにも甚大な影響を及ぼした。2020年の国際大会が中止されて国際協会の役員選挙が行われなかったことから、2019-20年度の国際協会執行役員及び国際理事、LCIF理事長及び理事の任期を1年延長。翌2021年の国際大会は初のバーチャル開催となった。クラブや地区の活動や会合を制限せざるを得ない状況の中でも、ライオンズは地域のさまざまなニーズを捉え、感染予防対策への協力や、コロナ禍で困難に直面した人々への支援に献身的に取り組んだ。

2023年、ライオンズクラブ国際協会とライオンズクラブ国際財団（LCIF）を傘下とするマスターブランド「ライオンズ・インターナショナル」の導入が発表された。新たなブランドの下で双方が取り組むグローバル重点分野の総合的な影響力を高め、ライオンズの奉仕について一貫性のあるメッセージを発信していくことを目指すもの。「ライオンズ・インターナショナル」を定義する対外向けメッセージとして「ニーズのある世界に奉仕する」、ライオンズの使命として「健康と福祉の改善」「コミュニティの強化」「困っている人々への支援」が掲げられた。新しいブランドは二つの組織を指す名称であり、協会と財団は今後も別組織として運営される。

2023年7月に開かれた第105回国際大会（アメリカ・マサチューセッツ州ボストン）では、27年7月1日までに世界の会員数を150万人に拡大する目標を掲げた「ミッション1.5（ワンポイントファイブ）」がスタートした。増え続ける地域社会のニーズにより良い形で応え、これまで以上に多くの人に奉仕を届けるために、会員増強によってその力を増強することを目指している。

第2章 ライオンズクラブの会員

「国際協会の会員」と言った場合、構成単位であるクラブを指す。一方、「クラブの会員」というのはクラブのメンバー一人ひとりのこと。この章では後者、単一クラブの構成員である会員について説明する。

ライオンズクラブの会員はそれぞれの地域社会で、あるいは国際的な活動を通して社会奉仕を行っている。ライオンズクラブという世界最大の奉仕組織の一員になることで、一人ではとても実現不可能な事業を実施、援助を必要とする人々に支援の手を差し伸べることが出来るし、クラブの仲間や、日本中、世界中に、同じ目的を持つ新しい友人を得て友情を育むことが出来る。

会員には「ライオンズ道徳綱領」が示す、「手段としてではなく目的として友情をもつ／不幸な人には同情を、弱い人には助力を、貧しい人には私財を惜しまない／批評は謙虚に、賞賛は惜しみなく、建設を旨として破壊をさける」などの姿勢が要求される。

では、どのような人がライオンズクラブの会員になる資格があり、会員になると、どのような権利と義務が生じるか。また、クラブの最終議決機関となる例会とは何だろうか。



会員の資格

ライオンズクラブの会員になるための資格は「善良な徳性の持ち主であり、地域社会において声望のある成人であること」。そして「会員の入会は招請のみ」とされている。

国際会則の会員資格から「白人に限る」という条項が削除されたのは1926年、アメリカで排日気運の高まる時代のことだった。ハワイ州ホノルルに、差別条項削除及びホノルルライオンズクラブ結成を目指し、黒川直也を中心にさまざまな人種を網羅した50人が集まった。人種の限定をなくす会則改定議案が可決された第10回国際大会は、カリフォルニア州サンフランシスコで開催されたのだが、この州こそが1900年頃、日本人移民排斥運動を起こした場所であった。しかし、ライオンズ会

員たちは会則改定を可決し、日系ライオン第1号として紹介された黒川を、爆発的な拍手をもって迎えたのであった。そして1949年、このホノルル ライオンズクラブのスポンサーでフィリピン・マニラ ライオンズクラブが結成され、3年後の1952年、マニラ ライオンズクラブのスポンサーで東京ライオンズクラブが誕生することになる。

会員資格の「成人男子」の限定も、1987年の第70回国際大会（台湾・台北）において女性のライオンズクラブ入会が可決され、男子の2文字が削除された。更に2003年には国際理事会が、国際協会公式出版物の「he（彼）」という英語を「he or she（彼または彼女）」に、「chairman（チェアマン／委員長）」を「chairperson（チェアパーソン）」に改めることを決議した。

また、2002年9月に行われた国際理事会において、ライオンズクラブ会員として在籍しながら、同じような性格の他の奉仕団体にも籍を置くことが認められることになった。

会員が入会する場合、多くは招請されて初めてライオンズに入会するが、それ以外に次のものもある。

再入会員：一度クラブを退会した人がクラブ理事会の承認を得て再入会する。

転籍会員：在籍するクラブを退会し、別のクラブに入会する。

当然いずれも元のクラブで優良な会員であったことが条件。元の奉仕活動歴は維持することが出来る。

チャーターメンバー：ライオンズクラブのチャーター承認後、90日以内に入会した全ての会員は、チャーター費を支払い、チャーターメンバーとして登録が出来る。この期間内にチャーターメンバーが国際協会に報告され、かつ納入金が支払われることが条件。

会員の権利と義務

ライオンズクラブの会員になると会員としての権利を得て、同時に義務を負う。会員はその権利を行使して、クラブ、地区、国際協会などの各レベルで意見を主張したり、反映させたり出来る。そして会員が義務を全うすることで、ライオンズクラブは健全に存続していくことが出来る。

ライオンズクラブの会員は理事会の承認に基づいて、いくつかの種類に分類されているが、ここで会員の権利と義務を説明するに当たっては、各種会員の中で最も多くの割合を占める「正会員」を例に取り上げることにする。正会員はライオンズクラブの会員であることから生じる全ての権利を持ち、また全ての義務を負う会員である。

権利

まず、正会員は「クラブ、地区（準及び複合）、国際協会の役職に就く権利」がある。ただし、例えば国際会長になるには国際理事を経験していなければならないし、国際理事になるには地区ガバナー経験者でなければならない。各役職に就くにはそれぞれに必要とされる条件を満たす必要がある。

次に正会員は「あらゆる事項に対する投票権」がある。つまり、クラブ例会などで行われる決議において、新会員もベテラン会員も同じ1票を投じることが出来る。

そして「各種大会への代議員としての出席、及び役員選出、決議事項への投票権」がある。この場合クラブが派遣出来る代議員の数は、地区年次大会（準地区・複合地区共）へは会員10人につき1人、国際大会へは会員25人につき1人と限られるが、クラブで指名され、資格証明を得ることによ

って代議員になることが出来る。

なお、家族会員プログラム、学生会員プログラム等に規定される国際会費の割引を受ける会員は「特典会員」に分類され、代議員算出対象から除外される（2024年1月1日から適用）。

義務

会員の義務の一つとして「速やかな会費納入」がある。これにはクラブ会費、地区会費及び国際会費が含まれ、いずれのレベルでも組織の健全運営は会員の速やかな会費納入にかかっていると言っても良いだろう。

2番目に「クラブ活動参加」。ライオンズクラブは奉仕する団体なのだから、奉仕活動に参加しなくては会員になった意味がない。

そして最後に「クラブが地域社会に良い印象を与えるような言動」。真のライオンズクラブをPRするのはライオンズのアクティビティであり、会員の行動である。会員は自身がライオンズクラブを体現しているという自覚を持って行動すべきである。

さて、先ほど各種会員の中で最も多くの割合を占めるのは正会員であるとしたが、それでは正会員以外にどのような会員の種類があり、それはどのようなものなのかをここで簡単に紹介する。それぞれに権利と義務は異なるので、詳細は「標準版ライオンズクラブ会則」を参照されたい。

賛助会員：正会員として全面的に活動出来ないが、クラブの活動を支持し、賛助したい、地域の優れた人物。

会員種別表

種別	会費即時支払 (クラブ、地区、国際)	クラブ活動参加	良い印象を 与える言動	クラブ、地区または国際 の役職への立候補資格	投票権・自身が 代議員になる資格	地区または国際の大会 の代議員数算出の対象
正会員	必要	必要	必要	有	有	対象になる
賛助会員	必要	可能な時	必要	無	クラブ事項のみ	対象になる
準会員	クラブ会費のみ支払う	可能な時	必要	無	地区大会(第1クラブ) クラブ事項(第1及び 第2クラブ)	対象にならない
特典会員	必要	必要	必要	有	有	対象にならない
名誉会員	必要なし クラブが国際及び 地区の会費を支払う	可能な時	必要	無	無	対象にならない
終身会員	クラブ及び地区の 会費を払い 国際会費は払わない	可能な時	必要	正会員の義務を 果たしていれば有	正会員の義務を 果たしていれば有	対象になる
不在会員	必要	可能な時	必要	無	クラブ事項のみ	対象になる
優待会員	必要	可能な時	必要	無	有	対象になる

出典：標準版ライオンズクラブ会則（2025～26年度）

準会員：他のクラブに主な会員籍を置きながら、クラブの活動地域に居住または職業を持つ者。

特典会員：家族会員、学生会員、その他の会員プログラムに参加した結果として減額された国際会費を支払う会員。会費を全額支払う正会員と同じ権利を持つが、クラブ代議員数算出の対象にはならない。

名誉会員：クラブ会員以外で、クラブが所在する地域社会またはクラブのために著しい貢献をし、クラブが名誉会員の称号を与えることを希望した者。

終身会員：20年以上正会員であり、会員として功績の著しい者。15年以上正会員であり、70歳以上の者。病気が重篤である者。以上のいずれかに当たる会員は必要手続きを通じて終身会員の資格を持つことが出来る。誤った解釈をされる場合があるのであえて付記するが、終身会員は正会員としての義務を全うしている限り、正会員の持つ全ての権利を持つ。

不在会員：クラブ所在地からの転出、または健康その他の正当な理由により規則正しいクラブ会合出席が出来ないが、本人がクラブにとどまることを希望し、理事会の承認を受けた者。

優待会員：15年以上クラブ会員であり、病気、虚弱、老齢その他クラブ理事会が認める正当な理由により、正会員であることを放棄した者。

いずれの会員もクラブを退会する時には、全ての未納金を支払い、クラブの財産を返却する。また、ライオンズクラブ脱退後はライオンズの名称・紋章などは使用してはならない。

例会

協議の場として

ライオンズクラブは上意下達型の組織ではなく、全ての会員が平等に意見を述べ、皆で話し合って物ごとを決定していく団体であり、例会はその出発点となる。

クラブが、あるアクティビティを実施しようとした場合、その事業を行うか否か、ある額の資金を投入してよいか、資金の調達方法など、会員による決議を得なければならない。入会したばかりの新会員もベテラン会員も同じ1票を持って、この決議が行われるのが例会である。もちろん事業の事細かな部分まで全員で決定していくことは出来ないので、詳細は各委員会で話し合われることになるだろうが、委員会で決定した事項の報告が行われるのも例会である。

友情を育む

もう一つ、単に物ごとを決定する会議とは大きく異なる、ライオンズクラブの例会の特徴がある。クラブ例会は、会員たちが定期的に集まって友情を育み、そこから活動の知恵やパワーを生む大切な場なのである。

それ故ライオンズクラブ会員は義務感からではなく、好んで例会に出席し、仲間たちと楽しい時間を共有することが望ましい。そのために多くのクラブの例会でライオン・テーマー、テール・ツイスターといった聞き慣れない名前を持つ役員が手腕を振るっている。ライオン・テーマーはクラブ備品の整備、保管、また例会会場の設営などの役割を担い、テール・ツイスターはさまざまなアイデアによって会合を盛り上げて、会員間の親睦を図る。

例会では新会員の入会式や、国際協会や地区などからの情報伝達、会員やクラブに贈られたアワードの紹介・贈呈、ゲストスピーカーを招いての講話なども行われる。

クラブには中心になって例会の準備をしたり、進行役となる人がいるが、全ての会員は自分たち



のクラブ例会が楽しく、有益なものになるように努力すべきである。例会出席は全ての原動力であることを認識していただきたい。

例会を始め、理事会、委員会他、ライオンズクラブにおけるあらゆる議事の進行は「ロバート議事規則」に基づく。これはアメリカ社会において、議事を民主的かつ円滑に進行するための法典として長きにわたり順守

されてきたものである。定足数順守、多数決、少数意見尊重を原則とした同議事規則には、会議における発言、議長の権限、討議の方法などが定められている。

メイク・アップ

自クラブの例会に出席出来ない時のために、ライオンズクラブではメイク・アップという制度を設け、一定の条件を満たした場合には欠席した例会を出席と「見なす」ことにしている。他クラブの例会または特別会合への出席、地区年次大会や国際大会など、正式なライオンズの会合への出席、病気で欠席した場合は医師の診断書提出、公務による欠席、近親者の喪に服するなどがこれに該当する。メイク・アップ規則の採択はクラブ会員の決議による。

クラブに合った例会づくり

国際協会は近年、例会の内容や頻度、構成を見直したり、会員間の連絡や議事の処理に新たなテクノロジーを導入したりするなど、会員にとって最適な例会づくりを推奨している。式次第に従って形式を重んじる「伝統重視タイプ」や、連絡や意思決定をオンラインで行う「つながり重視タイプ」、双方の良さを併せ持つ「混合タイプ」など、それぞれのクラブに合った形で有意義な例会にすることが求められている。

第3章 クラブ内の組織

クラブは国際協会のチャーター（認証）を受けて初めて、ライオンズクラブとして認められる。チャーターを受けるに当たり、クラブは「国際会則及び付則」に従うことに同意し、国際協会が推奨する「クラブ会則及び付則（標準版）」（以下、クラブ会則）を採用するか、もしくは標準版に則した独自のクラブ会則を採択して組織、運営される。

重責を担うクラブ役員

クラブ内の組織は役員と委員会に大きく分けられる。普通、役員は選挙で、委員会は会長の任命によって選ばれる。会員は役員になるか、委員会に所属するか、必ず何らかの役に就かなければならない。

クラブ役員とその任期

クラブ役員とは、会長、前会長、副会長（複数）、幹事、会計、奉仕委員長、マーケティング委員長、会員委員長を指す。この中でも組織の要となる会長、幹事、会計を一般に「クラブ三役」と呼んでいる。

ライオンズクラブでは7月から新年度がスタートする。役員の任期は、理事を除いて全て1年（ただし再任は妨げられていない）なので、毎年7月1日に新しいクラブ役員が就任することになる。クラブでも、準地区、複合地区でも、いくつかの例外を除いて、ライオンズの役職は1年任期が原則。1年ごとに新鮮な気持ちで役職に就くことは、慣れによる要領の良さより、はるかに効果的と考えられる。

クラブ役員の選出

「クラブ会則」が定める役員選出の手順（前会長を除く）を簡単にまとめると、次のようになる。

まず会長が指名する指名委員会が、3月もしくは理事会が決定した日に開かれる指名会に役員候補者名を提出する。この指名会では会員の中から候補者を推薦することも出来る。指名会の席上で他に推薦があった場合は、4月もしくは理事会が決定した日に選挙会を開催する。選挙は、選挙会に出席した有資格者の投票により、最高得票者が当選となる。

クラブ役員の役割

会長：クラブの最高執行役員。クラブ及び理事会の全ての会合を主宰する。クラブ・グローバル・アクション・チーム（GAT）のファシリテーター。運営、事業の全ては、担当委員会からの答申を受けて理事会が検討し、例会の承認を得てから、会長が執行する。その年度のクラブの成功と発展は、会長の双肩にかかっている。

前会長：元会長と共にクラブ会長及び副会長のメンター役を務め、また他の会員が任命される場合を除き、クラブLCIFコーディネーターを務める。

副会長：複数置くことが出来、会長の任務遂行が不可能になった場合に、その任務を代行する。また、会長の指揮の下、会長の割り当てた委員会の活動を監理する。第一副会長はクラブ指導力育成委員長を兼務し、クラブGATの重要なメンバーとなる。

幹事：会長及び理事会の指導監督の下、クラブの活動全般にわたって執行機関の中枢となる。クラブと所属地区、国際協会間の連絡に当たり、各種報告書の提出や記録の保管、会費その他の納入金の請求などの事務を担当する。また、地区ガバナー諮問委員会の構成員でもある。幹事は会則や上部機関からの通達をよく把握した上で、滞りなく処理すると共に、クラブ全般に目を配り、

会員相互の融和を図って和を保つこともその役目。クラブの盛衰を左右する重要な役割と言える。

会計：クラブの預金や現金を管理し、理事会の承認によって支払いを行う。会費の徴収は幹事、予算案作成は財務委員会、ファイン(罰金)やドネーション(寄付金)の徴収はテール・ツイスターに任務が分担されているため、連絡を密にして状況を把握する必要がある。

会員委員長：会員獲得や退会防止など、会員増強のための職務を行う。クラブGATの重要なメンバーを務め、地区GATと協力し、会員の満足度を高め、会員維持・増強につなげる。

奉仕委員長：地域社会のニーズに対処し、またクラブ、地区、国際協会の奉仕目的に沿った行動計画を策定、実施し、その評価、報告を行う。クラブGATの重要なメンバーを務め、奉仕活動に非ライオンズ、特に地域の若者やレオが関与する機会を盛り込む。

マーケティング委員長：報道機関、ソーシャルメディア、その他の効果的な手段を用いて、ライオンズクラブの奉仕活動、功績等について内外に公表する。ソーシャルメディアを通じて、人道支援活動、地域社会の参加、会員増強の取り組みを広げる。

クラブ運営をリードする理事会

理事の数はクラブの規模によって独自に定員を決めることが出来る。任期は通年2年間で、毎年半数ずつ改選される。1年目の理事を「一年理事」、2年目の理事を「二年理事」と呼んでいる。

執行機関である理事会は、クラブで承認された施策を各役員を通じて実施する責任を負う。その責任を果たすために、さまざまな権限と義務を持っている。それだけに理事会構成員には実力に富み、良識ある人材が求められる。

理事会の構成と役割

理事会の構成員はクラブ役員、ライオン・テーマー(設置は任意)、テール・ツイスター(設置は任意)、クラブLCIFコーディネーター、プログラム・コーディネーター、安全管理担当役員(設置は任意)、支部会長(指名された場合)、レオ顧問(指名された場合)及び全ての選出された理事または委員長からなる。

クラブの意志決定には、議決機関である例会の承認を必要とするが、その例会に議案を提出したり報告を行うのは理事会の役目。クラブの新企画や新施策はまず理事会で検討、立案した上で例会に提案される。そのため、理事会はあらかじめ各委員会に事案の調査や資料の収集、文案のまとめなどを付託し、その答申を受けて結論を出す。

理事会はクラブの会計や財政についても責任を持つ。全ての支出に承認権や拒否権を持ち、金融機関を指定することも出来る。また、クラブ役員の職務遂行に際して、その処置を修正したり、取り消したりする権限を持っている。

ライオン・テーマー(設置は任意)：理事会の意向を受けて、例会を設営し運営する。クラブの所有物や備品の管理も担当する。例会の秩序の維持に当たり、必要な印刷物を用意、配布したり、出席者の座席の配列などにも気を配る。特に新会員が会合ごとに違ったグループと同席し、出来るだけ早くクラブになじむような配慮が必要。

テール・ツイスター(設置は任意)：直訳すると「尻尾をひねる者」。会合を活気づけ、雰囲気や和やかにする例会の引き立て役。会員にファインを課し、徴収する権限を持つ。会則には「適切

な余興やゲームを行い、会員にファインを上手に課すことによって、会合の調和、友好、活気を促進する」とある。ファインを課す決定はいかなる規制も受けないが、ファインは理事会の定める額を超えてはならない。

理事会の開催

理事会の会合は少なくとも月1回は開くよう推奨され、その回数や日時、場所は理事会で決定する。会長または3人以上の理事会構成員の要求があった場合は、会長が決定する



日時と場所で臨時会合が開かれる。会合は構成員の過半数の出席で定足数とし、他に規定する場合を除いて、出席した構成員の過半数による決定で理事会全体の決議とする。

次期役員が選出されたら、次期会長は速やかに準備理事会を開く必要がある。準備理事会は、次年度になって正式に活動する理事会のメンバーで構成。次期役員は4月15日までに選出されることになっているが、就任するまでに準備理事会で次年度の方針や委員会構成、予算などを決めておかなければならない。その仮決議事項は、次年度の第1回理事会で正式に採決されることになる。

活発な委員会はクラブの原動力

委員会の役割

クラブの委員会は、それぞれの業務について理事会から事案の調査や研究を付託され、その答申を元にして理事会の結論が出される。全ての委員会は会長の職権によって設置され、会長の指名によって委員長、場合によっては副委員長、それに会長が必要と認める若干名の委員が配置される。会長は全ての委員会に職権委員として出席し、意見を言う資格があるが、決議に参加することは出来ない。

原則として毎月、委員長を通じて口頭または文書で理事会に活動を報告することが求められる。

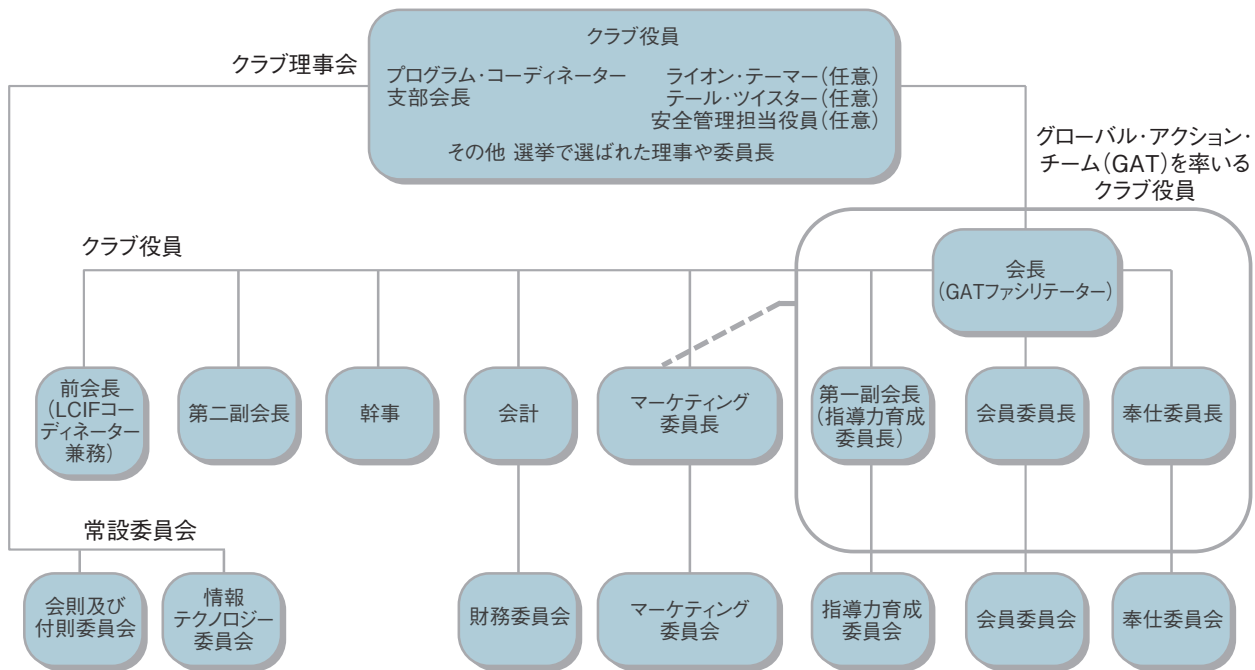
委員会は会長の意志によって設置されるが、クラブに必要な委員会として継続的に設置される常設委員会と、会長や理事会が必要に応じて設置する特別委員会がある。特別委員会は、会長や理事会が必要と認め、常設委員会で処理するのは適当でないと判断した時に新しく設置するもので、その業務の終了と同時に解散する。普通は短い期間で活動を終えるが、仕事の性質によっては任命した会長や理事会の任期を超えて存続することもある。また委員会はその性質によって運営に関する運営委員会と、事業に関する事業委員会の2種類に分けられ、業務の内容によってそれぞれ細分化される。

委員会の種類

「クラブ会則」では、会長が設置出来る常設委員会として、以下の委員会を挙げている。この他にも、クラブ理事会が決定した委員会を設けることが出来る。

グローバル・アクション・チーム（GAT）：クラブ会長がファシリテーターを務めるこのチームには、第一副会長（指導力育成委員長を兼任）、会員委員長、奉仕委員長が含まれ、マーケティング

●標準クラブ組織図



出典：国際協会ウェブサイト

委員長の支援を受ける。理事会の支援を得て、人道奉仕拡大、会員増強達成、将来のリーダー育成に向けた組織的な計画を策定し、実行する。会員と定期的に会合し、計画の進捗状況と、計画を支援する可能性のある取り組みについて討議する。地区GATのメンバーと連携してさまざまな取り組みや成功事例について学び、活動、成果、課題を共有する。地区ガバナー諮問委員会や、奉仕、会員増強、または指導力育成の取り組みを取り上げるその他のゾーン、リジョン、地区、あるいは複合地区の会議に出席して意見を交換し、クラブの取り組みに利用出来そうな知見を得る。

会則及び付則委員会：会則及び付則を解釈する。改正手順に従って、改正を進める責任が課せられることもある。

財務委員会：会計を委員長とし、詳細にわたる予算を編成してクラブ理事会の承認を仰ぎ、資金に関する適切な書類作成と権限を確保、クラブ口座の年次監査を手配、財務に関わるあらゆる情報の後任委員会への引き渡しが確実に行われるようにする。

会員委員会：新たなマーケットに働きかけ、積極的に会員を勧誘すると共に会員が満足するように計らうことで、会員が増えるようにする。この委員会は、会員候補者の資格要件も検証する。会員委員会には前年度の会員委員長、会員副委員長、並びに新会員勧誘や会員の満足度向上に関心のある会員を含めるべきである。

マーケティング委員会：クラブのマーケティング計画策定を支援する。理事会の支援を受けて、クラブと一般の人々に効果的な情報伝達が行われるようにし、地域社会におけるクラブの活動に対する認識を高め、知名度の向上を目指す。

奉仕委員会：奉仕の目標と行動計画を策定し、実施可能な事業を見極め、事業計画立案と実施において指導し、会員が有意義な奉仕に参加するよう支援する。奉仕事業における効果的なリーダー

シップを調整・確保することにより、クラブの各奉仕事業を担当する委員長をサポートする。理事会の承認の下に、関連のあるLCIF交付金の申請や、地域におけるパートナーシップの構築に責任を担うこともある。

情報テクノロジー委員会：必要に応じてオンラインツールやコミュニケーションツールへのアクセスや支援を提供することにより、会員に力を貸す。また、クラブのウェブマスターとして支援を提供したり、その役割を果たすこともある。

リーダーシップ委員会：第一副会長が委員長を務める。地区、複合地区、ライオンズクラブ国際協会が提供する研修の機会はもとより、クラブの会員に役立つ可能性のあるライオンズ外の研修プログラムについても会員に知らせる。

第4章 国際協会の組織

ライオンズクラブ国際協会の会員と言えば、チャーター（認証）を受けたライオンズクラブのことを指す。つまり一人ひとりの会員は、それぞれが所属する単一クラブの構成員であり、その単一クラブが国際協会の構成員となる。世界には約5万のライオンズクラブがあり、国際協会はその全クラブを管理するため、国際本部を頂点に、国や領域で区分した複合地区、準地区という下部機構を設置している。

世界のクラブを統括する国際協会

「国際会則」では国際協会の目的として、「ライオンズクラブの目的」の6項目(4章)に「ライオンズクラブという奉仕クラブを結成し、認証状を交付し、監督する」と「各ライオンズクラブの活動を調整し、運営を標準化する」の二つを加えた8項目を掲げている。

世界のリーダー、国際協会役員

国際協会の会員であるクラブの意志を集約するために、協会の最高議決機関である国際大会が毎年開催される。国際会則及び付則の改正や、国際会長、副会長、国際理事の選出は国際大会で投票によって行われ、各クラブは代議員を送ってクラブの意志を伝達する。



イリノイ州オークブルックにある国際協会本部

国際協会の役員は、国際会長、前国際会長、第一副会長、第二副会長、第三副会長、国際理事、地区ガバナー、運営役員、それに国際理事会の任命する役員である。そのうち、国際会長と前国際会長、第一、第二、第三副会長が執行役員を務める。運営役員は国際理事会により任命される

が、その他の役員は、いずれかのクラブのグッドスタンディングの正会員でなければならない。

協会と世界中の全てのライオンズクラブを代表する国際役員には、大きな責任と判断力が求められる。特に国際会長は1年間の方針を打ち出し、それを推進するために世界各国を歴訪する。

役員選出は、前会長を除く執行役員と国際理事は国際大会で、地区ガバナーは準地区の年次大会で行われる。任期は執行役員と地区ガバナーが1年で、国際理事は2年。国際理事は定数35人で、偶数年の国際大会で18人、奇数年に17人が改選される。

国際役員の主な役割と就任資格、任期は以下の通り。

国際会長：国際大会やあらゆる国際理事会を主宰。協会の業務及び活動を監督する。就任するには第三、第二、第一副会長を務め、国際大会の代議員投票で信任を受ける。任期は当選が宣言された時から次回国際大会で後継者が宣言されるまでとなる。

副会長：国際会長の職務遂行が不可能な時に、次席の副会長がその職務を代行する。第一、第二、第三副会長は国際大会の代議員投票で選出される。第三副会長に立候補するには、国際理事経験者で、所属する準地区、複合地区で推薦を受け証明書を提出する。任期は当選が宣言された時か

ら次回国際大会で後継者が宣言されるまでとなる。

国際理事：国際理事会の構成員。国際大会の代議員投票で選出される。立候補するには、地区ガバナー経験者で、所属する準地区及び複合地区で推薦を受け証明書を提出する。任期は後継者が選出され就任するまでとなる。

地区ガバナー：国際理事会の監督の下、所属地区において国際協会を代表する。地区運営の責任者。所属地区の地区ガバナー選挙で選ばれる（立候補資格は21歳「地区ガバナーの役割と選出」参照）。地区ガバナーの任期は当选した年の国際大会閉会時から、次回国際大会の閉会時までとなる。

協会運営をリードする国際理事会

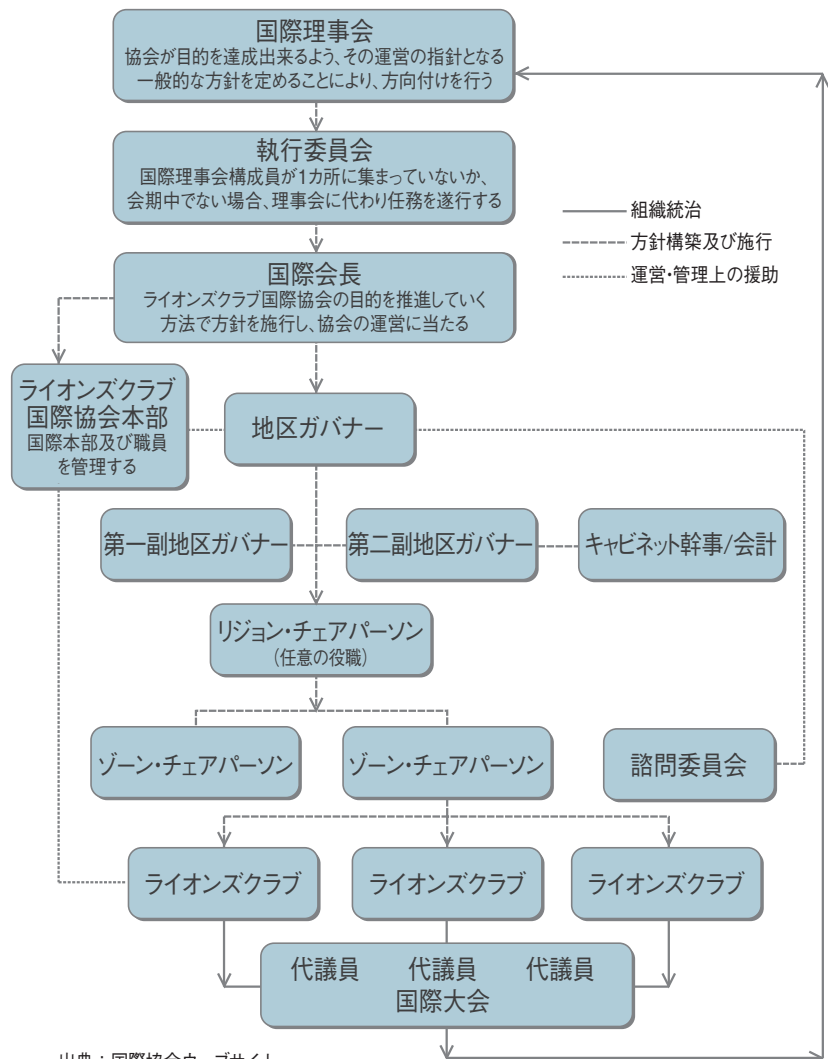
国際協会の執行機関として実質的な運営に当たる国際理事会は、国際会長、前国際会長、第一副会長、第二副会長、第三副

会長、及び35人の国際理事から構成される。国際理事の選出には、世界を八つの会則地域に分けてそれぞれ定数が決められている。アメリカ合衆国及びその領域、バミューダ及びバハマ諸島＝11人／カナダ＝1人／南アメリカ、中央アメリカ、メキシコ及びカリブ海諸島＝2人／ヨーロッパ＝6人／東洋・東南アジア＝7人／インド、南アジア及び中東＝6人／オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニア、インドネシア及び南太平洋諸島＝1人／アフリカ1人。日本は東洋東南アジア地域に属している。

国際理事会の任務は、全ての役員及び委員を全面的に統括監督する他、国際協会の業務と財産、資金を総合的に統括、管理すること。定例会議は年4回で、国際大会閉会直後と、10月か11月の秋季、3月か4月の春季、そして国際大会直前に開催される。

国際理事会には、監査、会則及び付則、大会、地区及びクラブ・サービス、財務及び本部運営、リーダーシップ開発、長期計画、会員増強、マーケティング、奉仕事業、テクノロジー、その他（協会運営に必要と考えられるもの）の常設委員会が設置され、委員には国際会長の指名を受けて国際理事が就任する。また国際会長は、国際理事会アポインティとして元国際役員を年間6人以内、任期1年で任命出来る。

●ライオンズクラブ国際協会組織図



国際理事会の下には執行委員会があり、国際会長と前国際会長、第一、第二、第三副会長、それに国際理事から選ばれた1人の合計6人で構成される。理事会の閉会期間中には、理事会に代わってその職務を代行する。

国際協会を支える本部

世界のライオンズクラブの活動を支える本部は、アメリカ・イリノイ州オークブルック市にある。協会の各部署のうち、世界各地のライオンズクラブと密接な関係にあるのが地区及びクラブ行政部で、その下にある太平洋・アジア課が日本語の翻訳とそれに伴う業務を行っている。本部事務局はライオンズ会員や一般市民に開放されており、日本からの訪問者には、日本人スタッフが事務局内を案内してくれる。2017年12月には東京にオセアル調整事務局が開局。国際役員及び国際協会任命役員へのサポートや、複合地区・地区を介した会員サポート、LCIF関連の活動支援、クラブ用品に関する支援を担っている。

複合地区——複数の準地区で構成

国際協会は世界各地に分布するライオンズクラブとの間に、複合地区、準地区の地区機構を設けている。複合地区は二つ以上の準地区で構成され、「複合地区会則」に基づいて運営されている。日本国内には330、331、332、333、334、335、336、337の八つの複合地区がある。

複合地区の組織

「複合地区会則」ではその目的を、「複合地区内の融和協調を図ること、国際協会の基本的活動方針に従い、複合地区内の各地区の運営を円滑にすること」と説明している。

複合地区には、所属する準地区の地区ガバナーを構成員として複合地区ガバナー協議会が設置される。更に協議会議長を務める現または元地区ガバナー1人を含める。協議会議長を含む協議会の各構成員は、協議会の決議を必要とする事項についてそれぞれ1票の投票権を持つ。構成員は副議長、幹事、会計などを各1人互選。幹事と会計は兼任することが出来る。

ガバナー協議会は複合地区会則の規定により複合地区の運営を管理し、役員を選任、また委員会を設置して委員長や委員を委嘱する。委員会は協議会が必要と認めたものだけが設けられる。

1年の総決算、複合地区年次大会

各複合地区は、国際大会開会日の15日前までに年次大会を終了していなければならない。複合地区大会にはさまざまな議案が用意され、担当別に分科会が設置される。この分科会で決議されたことは、出席者全員が集まる大会で報告され、そこで採否が決議される。議決は全て、代議員による投票数の過半数をもって決定される。複合地区大会では、国際会則及び付則に反しない限り、国際協会への提案事項を含むあらゆる事項を決定することが出来る。開催場所はガバナー協議会で決定し、大会の設営に協力するホスト・ライオンズクラブが指定される。

地区——各クラブの運営を円滑に

地区の目的は複合地区と同様に、「地区内の融和協調を図ること、国際協会の基本的活動方針に従い、地区内のライオンズクラブの運営を円滑にすること」とされている。日本国内には35の準地区がある。

地区の組織

クラブ数が35以上、グッドスタンディング会員が1,250人以上であることが、地区編成の最低条件となる。地区は二つ以上のゾーンから成るリジョンに分割することが出来る(地区ガバナー任期中にリジョンを活用する場合)。各ゾーンは4～8のクラブで構成されるべきである。それぞれの責任者として、リジョンではリジョン・チェアパーソン、ゾーンではゾーン・チェアパーソンが運営に当たる。リジョン・チェアパーソンについては、地区ガバナーがその任期中に任命するかどうかを定める権限を持ち、任命されなかった場合は空席となる。

地区ガバナーの役割と選出

国際協会の役員である地区ガバナーは、地区内で国際協会を代表する役割を担う。また地区の運営責任者としてキャビネット構成員の指導、監督に当たる。その任務として、国際協会の目的を推進すること、地区内クラブの会員増強、新クラブ結成、指導力育成、人道支援奉仕、LCIFの支援を推進することなどが挙げられる。

地区ガバナーの選挙は地区年次大会で行われる。選挙は代議員による無記名投票（過半数の賛成投票を得なければならない）か、各地区の会則及び付則の規定に従った方法で行われる。その選挙結果は国際理事会に提出され、その採択を経て有効となる。つまり、地区ガバナーは国際理事会の任命を得て初めて就任出来ることになる。地区ガバナーの立候補資格は、地区内にあるグッドスタンディングの正ライオンズクラブのグッドスタンディングの正会員であること、所属クラブの推薦あるいは地区内の過半数のクラブの推薦を受けていること、更に現職の第一副地区ガバナーを務めていること。地区ガバナーが正式に就任するのは、国際大会の閉会時となるため、通常4月から6月にかけて開かれる地区年次大会で選出されてから、6月末から7月初旬にかけて開かれる国際大会で就任するまでの期間は、「地区ガバナーエレクト」と呼ばれる。

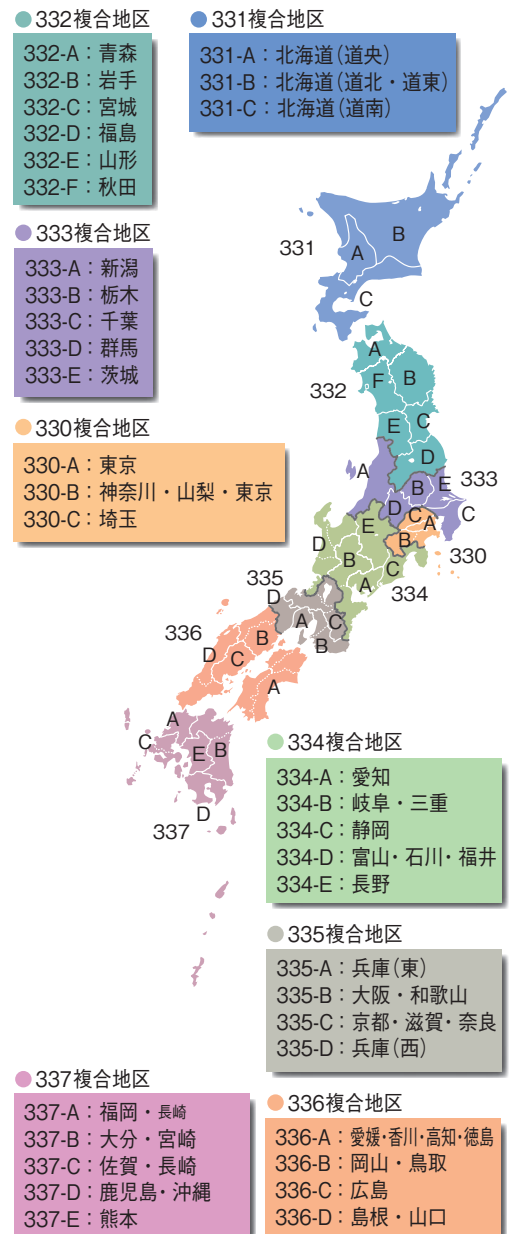
副地区ガバナーの役割と選出

第一及び第二副地区ガバナーは地区ガバナーの補佐役を務めると共に、その任務に精通しておくことが求められる。地区ガバナー就任に備えて地区運営などを学ぶ勉強の期間であるとも言える。

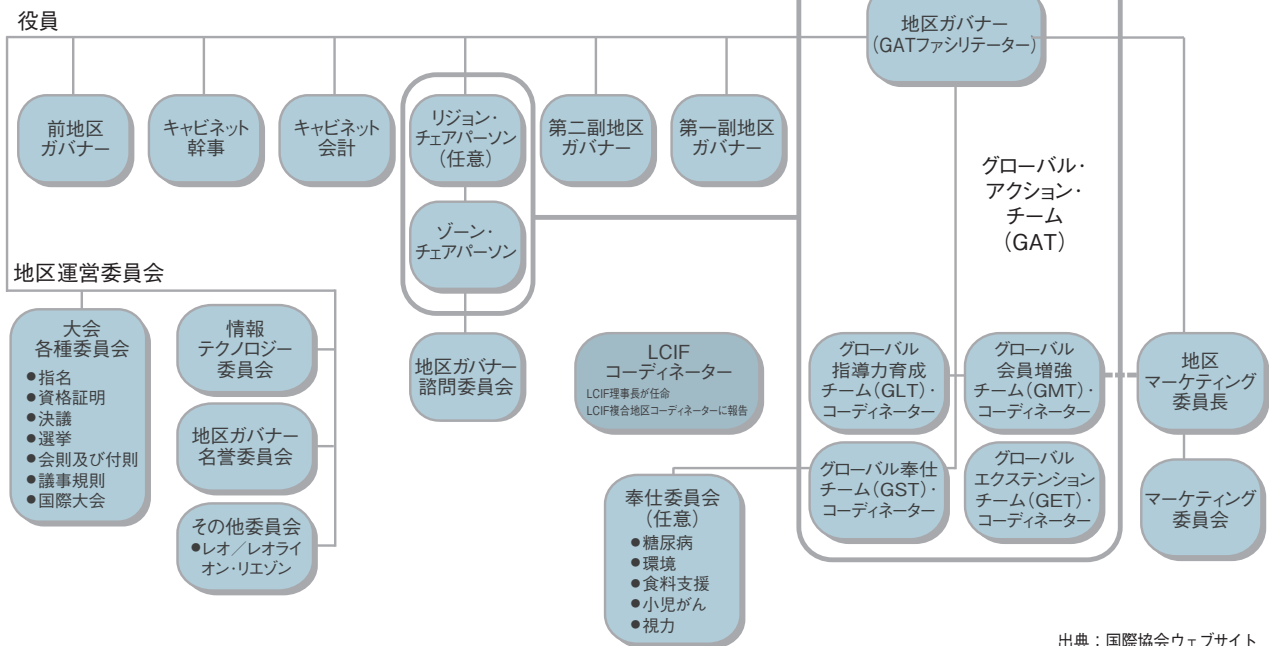
第一副地区ガバナーに立候補するには、地区内にあるグッドスタンディングの正ライオンズクラブのグッドスタンディングの正会員で、所属クラブの推薦あるいは地区内の過半数のクラブの推薦を受けており、所属地区の第二副地区ガバナーを務めていることが条件となる。

第二副地区ガバナーに立候補するには、地区内にあるグッドスタンディングの正ライオンズクラブのグッドスタンディングの正会員で、所属クラブの推薦あるいは地区内の過半数のクラブの推薦

●日本国内の複合地区と準地区



●標準的地区キャビネット組織図



出典：国際協会ウェブサイト

を受けており、就任する時点で、クラブ会長を半期以上、クラブ理事会の構成員として2年以上務め、かつゾーン・チェアパーソン、リジョン・チェアパーソン、地区グローバル・エクステンション・チーム (GET) コーディネーター、地区グローバル指導力育成チーム (GLT) コーディネーター、地区グローバル奉仕チーム (GST) コーディネーター、地区LCIFコーディネーター、キャビネット幹事、会計のいずれかを半期以上務めていることが条件となる。第一、第二副地区ガバナーも地区ガバナーと同様に、地区年次大会で代議員の投票によって選ばれる。

ガバナーを支える地区キャビネット

地区ガバナーは実質的に地区の運営に当たる地区ガバナー・キャビネットを主宰する。キャビネット構成員は、地区ガバナー、第一、第二副地区ガバナー（いずれも同一クラブに属さないこと）、前地区ガバナー、リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、キャビネット幹事、キャビネット会計の他、地区会則及び付則で規定された会員で、この構成員が地区役員と呼ばれている。キャビネットは地区の運営方針を決定するため、原則として年4回のキャビネット会議を開催する。

地区の決議を行う地区年次大会

地区の1年を締めくくる年次大会では、さまざまな決議や承認など、地区にとって重要な問題が扱われる。それと同時に、他クラブと親交を深める交流の場であり、情報交換の場でもある。参加した現・元国際役員と、単一クラブから派遣された代議員で構成され、決議事項はその投票の過半数をもって決議される。地区大会での重要な決議事項は、前述した次期地区ガバナーと副地区ガバナーの選出だが、そのほかにもさまざまな事項が審議される。そのため、それぞれの担当が分科会で検討し、その結果を大会に報告して全員の承認を受ける。地区大会では、国際会則及び付則に反しない限り、国際協会への提案事項を含むあらゆる事項を決定することが出来るが、国際協会への提案については複合地区大会を経なければならない。

地区年次大会はキャビネットが決定した場所で開催され、期日はキャビネットとホスト・ライオンズクラブによって決定される。

第5章 アクティビティ

ライオンズクラブでは奉仕活動のことを、アクティビティと呼ぶ。

一般にボランティア団体は、ある特定の奉仕分野に特化し、専門的に活動するものが多い。が、ライオンズクラブの活動分野は非常に多岐にわたっている。もともとは、それぞれの地域社会を良くするために活動を始めた団体であり、極端に言えば地域のニーズがあれば何にでも取り組むのがライオンズである。

そうした中でも、国際協会が主要な奉仕分野と位置付けてきたものがある。創設100周年を迎えた際には、世界的に特にニーズが高い課題として「グローバル重点分野」を定めた。ここではグローバル重点分野と、特に日本のライオンズが重点的に取り組んできた奉仕活動を取り上げる。

グローバル重点分野とイニシアチブ

国際協会は100周年を機に世界中の会員を対象に行った会員アンケートによる調査に基づき、「糖尿病」「視力保護」「食料支援」「環境保全」「小児がん」の5分野を「グローバル重点分野」に決定。2023年、「ライオンズ・インターナショナル」の新ブランド導入に伴って「災害援助」「人道支援」「青少年」が追加され8分野になった。更に、2025年には積極的に取り組む分野として「心の健康とケア」がイニシアチブに設定された。140万人を超える会員を擁するライオンズが、これらの深刻な課題に対応する奉仕事業を実施することで、世界により良い変化を及ぼすことが出来る。

グローバル重点分野

- 小児がん＝小児がんを患う子どもたちとその家族のニーズを満たすため、支援提供に取り組む
- 糖尿病＝糖尿病のまん延を抑えると共に、糖尿病を抱える人の生活の質向上に取り組む
- 災害援助＝自然災害に見舞われた地域社会の、緊急のニーズへの対応と、長期的な支援の提供に取り組む
- 環境保全＝より健やかな地域社会と、持続可能な世界を実現するため、環境保全に取り組む
- 人道支援＝世界で最も切迫したニーズを特定し、最も必要とされる場所での人道支援の提供に取り組む
- 食料支援＝飢えを緩和するため、食料安全保障と、栄養価の高い食料へのアクセス改善に取り組む
- 視力保護＝回避可能な失明を予防すると共に、目の不自由な人の生活の質向上に取り組む
- 青少年支援＝若者が良い選択をし、健全で生産的な生活を送り、次世代の偉大な奉仕のリーダーになるために必要な支援の提供に取り組む

イニシアチブ

- 心の健康とケア＝心の健康とケアの重要性に対する認識を高め、地域社会を啓発・支援し、前向きな変化を推進する

視力

1925年のライオンズクラブ国際大会に、三重苦の聖女と呼ばれたヘレン・ケラー女史が、ゲストスピーカーとして招かれた。そこで彼女はライオンズに対し「暗闇と戦う盲人のための騎士になってください」と、訴えた。以来、ライオンズクラブは視覚障害者福祉や視力保護の活動に重点を置いている。



視覚障害者用の白い杖が全世界に広まることになったきっかけの一つは、1930年にアメリカ・イリノイ州ピオリアライオンズクラブが視覚障害者にこれを配布したことによる。1944年4月にはアメリカのニューヨークに世界初のアイバンクが設立され、ニューヨークのライオンズが角膜あっせんの活動を展開。その後、アメリカの五つのクラブがアイバンクのパンフレットを作

って全米のクラブに呼びかけ、各地でアイバンク設立の動きが進んだ。1990年にスタートした「視力ファースト」は、ライオンズの最も野心的で、30年以上にわたって最も大きな成功を収めた国際プログラムの一つ。オンコセルカ（河川失明）症やトラコーマ対策、白内障手術の提供など、世界の100を超える国におけるプロジェクトに約4億ドルを投じ、5億人以上の視力を保護または回復させた。

日本では献眼運動の先頭にライオンズクラブが立っている。1958年に角膜移植に関する法律が出来ると、福岡ライオンズクラブが献眼登録運動を開始。1961年には岡山県・金光ライオンズクラブが日本のライオンズとしては初の会員全員登録を実現させた。1964年、東京関東ライオンズクラブを中心に東京の6クラブがライオンズ・アイバンク協会を発足。更に、静岡県沼津市では沼津ライオンズクラブを中心に運動が展開され、1971年には第1回全国アイバンク運動全国大会を沼津市で開催。献眼推進の動きは全国へ拡大していった。運動の高まりの中、ライオンズ主導によるアイバンクの設立も相次いだ。1969年には中国・四国地方のライオンズが年次大会記念事業として、香川県にアイバンクを開設。1970年代には各地の有志ライオンズを中心に、アイバンク運動推進全国大会が開催され、アイバンク運動は全国へと広がっていく。1977年栃木県、1978年三重県、1979年山形県と、ライオンズ主導によるアイバンク設立も相次ぎ、1979年からは九州・沖縄のクラブが合同で5カ年計画を立て各県にアイバンクを設立した。

日本の盲導犬事業もライオンズクラブの協力で始まった。最初の取り組みは東京オリンピックが開催された1964年ごろのこと。この年（社）日本動物福祉協会が、東京霞ヶ関ライオンズクラブ会員だった同協会幹部らの提案により、盲導犬学校委員会を発足させた。これを受け、東京霞ヶ関ライオンズクラブは盲導犬学校への支援を継続事業としてスタートさせた。その後、1967年に（財）日本盲導犬協会が設立され、参議院議員で東京ライオンズクラブ会員だった杉迫水久常が初代理事長に就任した。更に多くのライオンズ会員が理事に名を連ね、全国のクラブから寄付が送られた。その後も各地のクラブが盲導犬育成を支援。またLCIF交付金を受け、盲導犬訓練所の建設にも尽力している。

献血

献血事業は全国各地のライオンズクラブが展開し、日本ライオンズの主要アクティビティとなっている。

1960年ごろ、日本の血液事業は血液産業による売血が、ほぼ100%を占めていた。転機となったのは1964年、ライシャワー駐日アメリカ大使が暴漢に刺され、輸血の際に血清肝炎を併発した事件だった。これは国会でも取り上げられ、献血受け入れ態勢の整備が進んだ。こうした流れの中、1966年に結成された東京秋葉原ライオンズクラブは当初から献血運動をメイン事業に取り上げ、「二十歳（はたち）の献血」や「誕生日に献血を」など、マスコミを巻き込んだキャンペーンも展開、献血推進に大きく貢献した。

1980年代に入ると血液事業が大きく転換。これまでの全血輸血から成分輸血への切り替えが進み、1980年代末には全輸血量の約90%が成分輸血で賄われるようになった。一方で薬害エイズ問題によって、世界の^{けっしょう}血漿の3分の1を消費し、しかも95%を輸入に頼る日本の血液事業のゆがんだ姿が浮き彫りになった。厚生省（現・厚生労働省）は血漿の国内自給を提唱し成分献血推進がその骨子となった。そうした中、京都平安ライオンズクラブの尽力で国内初の大型採漿ルームが京都市に開設された。更に京都や東京のライオンズを中心に成分献血運動が盛んになり、それらは全国に波及していった。

現在、ライオンズクラブは国内最大の献血協力団体となっている。1989年7月には日本赤十字社が昭和天皇のご遺金を基に創設した献血推進賞の第1回受賞の栄に日本ライオンズ（ライオンズクラブ国際協会330～337複合地区）が輝いた。

青少年

青少年関係アクティビティは日本ライオンズが最も力を注いでいる活動である。主な活動に、ライオンズクエスト、青少年交換、レオクラブ、国際平和ポスター・コンテストなどがある。

ライオンズクエスト

1984年、国際協会がクエスト・インターナショナルと共に開発した青少年プログラム。青少年が、人間関係など日常で体験するさまざまな困難を上手に乗り越えるために必要なライフスキル(生きる力)を身に着けることを目標としている。実践型、生徒参加型であることが、このプログラムの特徴で、すぐ実行出来る具体的なスキルとして学び、それを経験を通して身に着け、自尊心の高い人間として成長するのを支援する。

2002年にはプログラムの更なる拡張のため、ライオンズクラブ国際財団（LCIF）が版權を獲得した。ライオンズクエスト・プログラム導入国は110カ国以上に上り、日本でも多くの地区がLCIF交



ライオンズクエスト・プログラムを用いた授業風景

付金事業としてプログラムの推進に取り組んでいる。

青少年交換（ユースキャンプ及び交換=YCE）

青少年交換は1961年に兵庫県神戸市のライオンズとアメリカ・カリフォルニア州のライオンズが始めた「日米夏季学生交換計画」が元になっている。この時は日本人学生9人とアメリカ人学生13人が海を越えた。その年秋の国際理事会でこの交換事業が話題となり、国際協会はこれを正式な国際プログラムとして導入、以来毎年多くの青少年がこのプログラムに参加している。

派遣生の年齢は15～21歳、ライオンズクラブがスポンサーになる。派遣期間は4～6週間がほとんどで、ホスト家庭に滞在し家族の一員としての日常生活の中で、地域の人々と触れ合う機会を持つことが出来る。また、派遣先のクラブが企画する行事や社会見学に参加することもある。

レオクラブ

国際協会は青少年の指導育成のために全世界に一貫した目的と意義を持つ活動を展開しようと、1967年にレオクラブの結成を決定した。レオクラブの方針は「地域社会の青少年に指導力、経験、機会を与え、個性豊かな人間に成長させるための奉仕活動を推進する」「会員の間に友情、親善および相互理解の精神を育成する」というもの。レオ（LEO）とはこの指導力（Leadership）、経験（Experience）及び機会（Opportunity）の頭文字を取ったもの。

レオクラブは地域清掃などの環境活動、老人ホームなどの施設訪問、バザーや祭りでの出店や、ライオンズクラブのアクティビティへの参加協力などの活動をしている。

日本の代表的アクティビティ

トピック1 - スズラン給食

1965年、日本ライオンズ史に残るアクティビティが岩手県で生まれた。岩手県北上高地にある玉山村藪川は絶えず冷害に悩み、藪川小・中学校分校の児童・生徒のうち4割が弁当を持っていなかった。繁栄への道を歩き始めていた当時の日本では信じられないような事態を知り、盛岡ライオンズクラブが行動を起こした。まず、その分校に給食設備が贈られ、東京や横浜の各クラブも協力を申し出た。更に、多くの人にこの子どもたちのことを知ってもらおうと、盛岡ライオンズクラブは山で摘んだスズランを東京のクラブに送り、例会でそれを売って給食費に充ててはどうかと提案した。子どもたちが採取したスズランは東京の23クラブ、横浜の3クラブに送られ、約120万円の給食基金が集まった。



1965年に始まったスズラン給食運動の主役、岩手県・藪川の子どもたち

こうして1965年6月から藪川校での給食が始まり、毎日新聞、TBSがこれを報道して大きな波紋を広げた。時の佐藤栄作首相は緊急指示で、辺地校への給食特別対策費として予備費から5億円を支出することを決めた。更に翌年、辺地給食が予算化され、パンと牛乳は全額国庫負担となった。東北の一クラブが投げかけた奉仕活動が、ついには国を動かしたのである。

トピック2 - インド救ライ



インド救ライ事業に余生を捧げた宮崎松記博士

「ハンセン病（ライ）に悩むインドを救おう」と、1959年から始まった日本ライオンズの合同アクティビティ。同年の第5回年次大会で「インドのライ事情視察のため専門医を送る」ことが決議された。当時、世界には1,070万人に及ぶハンセン病患者がいて、そのうち250万人がインドの患者であった。同年12月、ハンセン病専門医宮崎松記博士（後に熊本ライオンズに入会）をインドへ派遣。博士は6カ月にわたりハンセン病事情

を視察しインド政府宛てに報告書をまとめ、幅広い勧告を行い、当時のネール首相からも協力を依頼された。博士はその後、1961年にもインド各地を訪ね現地の人々から専門病院の建設を懇願され具体策の検討に入った。

これを受け、ライオンズクラブはマスコミにも働きかけ、毎日新聞、NHKがインド救ライ・キャンペーンを展開、日本キリスト教救ライ協会や全日本仏教会、国際文化会館などがインド救ライ・センターの建設に動き始めた。ライオンズはインド救ライ募金を展開すると共に、アジア救ライ協会を発足させ、運動を全国に広めた。こうした努力が実り、1967年、インドのウッタル・プラデッシュ州アグラ市郊外にインド救ライ・センターが完成。センター治療棟の壁には「この治療棟は日本地区における国際ライオンズ協会が寄贈したものである」というプレートがはめ込まれている。

このセンターを拠点に診療を続けていた宮崎博士は1972年、日本からインドへ向かう航空機の事故により急逝したが、その後も日本ライオンズのインド救ライ活動は、1981年にアジア救ライ協会が目的を果たしたとして20年にわたる活動を閉じるまで続いた。

トピック3 - 阪神・淡路大震災と東日本大震災

日本列島はしばしば、巨大地震や大型台風などの自然災害に見舞われてきた。その度に被災地域のクラブと全国各地のクラブが協力して、被災直後の緊急支援物資提供や炊き出し、その後の復興支援に取り組んでいる。

1995年1月17日、兵庫県南部をマグニチュード7.2の直下型地震が襲った。神戸や西宮では倒壊家屋10万戸以上、死者6,400人以上に上り、ライオンズでも5人の会員が犠牲となった。発生翌日から京阪神地域のクラブを中心に、日本各地のクラブが食料や水、生活必需品などの援助物資を持って、または医療活動援助を行うために被災地へ向かった。ライオンズクラブ国際財団（LCIF）からは335複合地区内の四つの準地区に大災害援助金が送金された。この震災を機に、LCIF大災害援助金の上限額が見直され、阪神・淡路大震災関係の交付金は最終的に46万ドルに上った。これらは震災遺児に対する奨学金、神戸母子寮再建支援、身体障がい者作業所復興、地元ライ



岩手県釜石市の支援物資保管所に物資を運び込むメンバー

オンズによる災害救援事業支援、被災クラブ再建支援などに使われた。

2011年3月11日、東日本の太平洋岸南北約500^{キロ}を震源とするマグニチュード9の地震が巨大津波を引き起こし、東北から関東北部の沿岸部に壊滅的な被害が発生した。震災による死者・行方不明者は1万8,000人余り、発生直後には40万人以上の避難者が出た。ライオンズでは21人の会員が犠牲になった。被害の大きかった地域では会員の大半が被災し、事務局も流失。そんな中、交通路や通信の途絶、ガソリン不足といった困難を乗り越えて、多くのクラブが緊急支援物資を携えて被災地へ入った。LCIFは即座に125万ドルの拠出を決定。LCIFによる東日本大震災指定交付金は約2,100万ドルに上り、その資金を活用して復興支援活動が実施された。

LCIF

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）は、ライオンズクラブの活動を支援するために設立された。LCIFの交付金を活用することで、クラブは独力で行う以上の奉仕を実施することが出来る。健康と福祉の向上、コミュニティーの強化、弱い立場にある人々への援助といったライオンズの取り組み



をサポートするため、多岐にわたる交付金プログラムを設けている。

- マッチング交付金＝満たされていない人道的ニーズに対応する大規模な事業の設備・建設費に充てられる。事業は多くの人々に奉仕するものでなければならない。交付金額は1万～15万ドル。
- 地区及びクラブシェアリング交付金(DCG)＝LCIFに対する用途無指定の寄付の15%が、DCGプログラムを通じて、地区及びクラブで行われる地域事業の資金源として交付される。申請には1会計年度内にクラブで最低5,000ドル、地区で最低1万ドルの寄付が必要。
- 糖尿病交付金＝青少年を対象とした糖尿病キャンプや、総合的なフォローアップ治療計画を伴う糖尿病スクリーニング検査、既存の糖尿病ケア施設のインフラ整備や設備取得、専門家や糖尿病に関する地域社会の意識啓発に携わる人たちの研修を支援する。地区は15万ドル、複合地区は25万ドルを上限に総事業費の75%までを申請出来る。
- 視力交付金＝失明や予防可能な視力喪失との闘いや、眼科医療サービスが十分に行き届かない地域の失明者や視覚障がい者を援助するライオンズ主導の奉仕事業を支援する。1万～30万ドルの間で申請することが出来、発展途上国からは総事業予算の75%まで、先進国からは50%までを申請出来る。人材育成や能力強化に充てる場合は、現地マッチング資金は不要。
- 食料支援交付金＝飢餓の緩和を焦点とするライオンズの事業を対象に、インフラ開発や設備取得を支援する。交付金は事業に必要な資本と初期段階における特定の事業運営費に充てることが出来る。地区を対象に1万～15万ドルが交付される。
- 小児がん交付金＝地区及び複合地区を対象に、1万～15万ドルの交付金を提供される。事業は既存の公立または慈善小児がん医療施設と連携または協力して実施しなければならない。
- 災害援助交付金
 - ・ 防災準備交付金＝地域当局その他の地域組織と提携して将来の災害援助活動を計画し、備えたいと考えている地区を支援する。地区ガバナーは提案書を提出し交付金を申請することが出来る。交付金額は5,000～1万5,000ドル。
 - ・ 緊急援助交付金＝自然災害に見舞われた地区に提供される。地区ガバナーが申請出来、食料、水、衣類、医薬品といった緊急ニーズを満たすために役立てられる。交付金額は5,000～1万5,000ドル。
 - ・ 大災害援助交付金＝大規模な災害が発生した場合に、長期的な復興事業のために交付される。国際会長とLCIF理事長の裁量によって交付され、地区が申請することは出来ない。国際的に多大な影響を及ぼす大災害に対して多額の資金を提供する。
- レオ奉仕交付金＝レオが企画と実施に直接携わる人道奉仕事業を支援する。地区及び複合地区が申請出来、1,500～5,000ドルが交付される。
- ライオンズクエスト交付金＝ライオンズクエスト・プログラムを推進するために役立てられる。最少申請額は1万ドルで、地区は5万ドル、複合地区は15万ドルを上限に申請出来る。ライオンズクエスト交付金の前に、少額（1件上限1,500ドル）で申請期限のないライオンズクエスト普及促進交付金やコミュニティパートナーシップ交付金を申請し、小規模な活動から始めることも出来る。

付録 ライオンズ・カレンダー

ライオンズクラブの年度は発祥の地アメリカの会計年度に合わせ、7月から翌年6月までとなっている。毎年、年度替わりのこの時期、6月下旬か7月初旬に国際大会が開催される。開会式で1年間の年次報告が行われ、閉会式では新国際会長の就任式が執り行われる。このように国際大会は、まさに年度の区切りとなるライオンズクラブ最大の行事なのである。

国際大会は毎年異なる場所で開催され、100を超える国々から1万人を超える会員・家族が参加する。世界中のライオンに会って交流出来るすばらしい機会であり、またさまざまな国を訪れ、その土地、人々、伝統、文化を知る機会をも提供する。



国際大会は通常5日間にわたって開催され、2日目に行われるインターナショナル・パレードから実質的なスタートとなる。パレードはカラフルな民族衣装に身を包んだ世界各国の会員・家族およそ1万人が参加する。国際大会では3回の総会と、国際役員選挙及び国際会則改正案の賛否投票が行われる他、奉仕活動やクラブ運営に関するさまざまなセミナーが開かれる。

インターナショナル・パレードの翌日に開かれる初日総会（開会式）では国際会長の年次報告や国際第三副会長の候補者演説、2日目総会ではLCIFの年次報告や表彰が行われる。最終日総会（閉会式）では、新国際役員の選挙結果と会則改正案の投票結果が発表され、新国際会長の就任式及び就任演説があり、閉会式の最後には地区ガバナーが就任の宣誓をも行う。

国際役員選挙及び国際会則改正案の賛否投票は、各クラブの代議員によって行われる。各クラブは国際大会へ、会員25人ごとに1人、及び端数13人以上に1人の代議員及び補欠を出席させることが出来る。代議員の派遣は各クラブの義務であり、代議員権は会員としての大切な権利なので、きちんと行使したい。

7月＝新年度スタート

国際大会の閉会式で新年度の国際会長と地区ガバナーが就任すると、いよいよ新年度がスタートする。

各地区では、地区ガバナーの公式訪問も始まり、その年度の方針などが各クラブに伝えられていく。ガバナー公式訪問は、クラブにとって地区ガバナーに親しく接する絶好の機会となるので、全員が出席して迎えたい。公式訪問はクラブごとに行われるのが原則だが、最近はゾーン単位で行われることが多い。

9月＝小児がん認識月間

10月＝視力保護認識向上月間、ライオンズ会員増強月間、レオ会員増強月間

10月8日＝ライオンズ・デー

ライオンズクラブ国際協会の最初の大会（1917年10月8日／アメリカ・テキサス州ダラス）を記念して、1962年の日本各地の年次大会及び1965年の東洋東南アジア大会（現東洋東南アジア・フォーラム）でこの日を「ライオンズ・デー」とすることが決議された。

10月／11月＝東洋東南アジア・ライオンズ・フォーラム

国際協会は全世界を八つの会則地域に分けており、日本は第5会則地域（東洋東南アジア地域）に含まれる。各会則地域ごとにフォーラムが開かれ（第1会則地域のアメリカ及びその周辺と第2会則地域のカナダは合同で開催）、日本が所属する第5会則地域のフォーラムは、東洋東南アジア・ライオンズ（Orient and South East Asian Lions）の頭文字を取って、オセアル（OSEAL）フォーラムとも呼ばれる。

フォーラムの目的は、①ライオンズクラブ国



際協会の目的と目標を促進する。②地区及びクラブ役員を指導・教育、及び意欲喚起を行う。③合同奉仕事業の機会を含む奉仕活動について、情報や意見を交換する場を提供する。④LCIFに対する理解と認識の向上を図る、ことにある。フォーラムではいくつかの決議が発表されるが、会則で定められた大会ではないため、拘束力を持った決議権はなく、紳士協定的な意味合いのものとなっている。

11月＝糖尿病教育月間

12月5日＝国際レオ・デー

世界で最初のレオクラブは1957年12月5日、アメリカ・ペンシルベニア州アビントン高校に結成された。これは同校野球部のコーチを務めていたジム・グレーバーが、所属するグレンサイドライオンズ²⁷に提案し、同クラブがスポンサーとなって35人の会員で結成された。クラブの名称はリーダーシップ（Leadership）、対等（Equality）、機会（Opportunity）の頭文字を取ってレオ（LEO）という略称を採用した（Equalityは後にExperience「経験」に変更された）。そして、クラブ・カラーとしてアビントン高校のスクール・カラーでもあった栗色と金色を選び、これが今日までレオのクラブ・カラーとなっている。国際理事会は1967年に協会の正式プログラムとしてレオクラブを採択、

以来、世界各地にレオクラブが広がった。更に理事会では世界最初のアビントン高校レオクラブが結成された12月5日を「国際レオ・デー」に指定している。

1月13日＝創設者メルビン・ジョーンズ 生誕日



ライオンズクラブ国際協会の創設者メルビン・ジョーンズは1879年1月13日、アメリカ・アリゾナ州のトーマス砦の軍人の家に生まれた。父は騎兵隊を指揮していた陸軍大尉ジョン・カルビン・ジョーンズ。メルビン・ジョーンズは先住民の組織的抵抗が終わるまで、家族と共に騎兵隊の砦の中で育った。

メルビンが15歳の時、一家は父の転勤でミシシッピ川中流右岸のミズーリ州セントルイスに移り、その後、対岸のイリノイ州クインシーに転居した。メルビンはクインシーの大学で法律を学んだ後、20代でシカゴに出て保険会社に就職。やがて1913年、独立して保険代理店を始めたジョーンズの元にビジネス・サークルから昼食会への誘いがあった。このサークルが、後のシカゴ・セントラルライオンズクラブで、ライオンズのマザー・クラブと呼ばれている。

2月＝小児がん認識月間

3月＝国連ライオンズ・デー

ライオンズクラブ国際協会は、国連憲章起草への助力を最初に求められた非政府組織の一つで、国連はその使命に対するライオンズクラブの重要性を認め、1947年に世界中の人々の福祉に尽力する国連経済社会理事会の顧問としての資格をライオンズに与えた。

国連ライオンズ・デーはそうしたライオンズと国連の関係を記念して1978年に始まった。毎年3月上旬にアメリカ・ニューヨークの国連本部ビルで開催されるこの年次行事の目玉は、著名な世界のリーダーによる基調講演、専門家のパネルディスカッションなどで、1989年からはライオンズ国際平和ポスター・コンテスト、2011年からライオンズ国際平和エッセー・コンテストの授賞式も行われている。国連ライオンズ・デーは現在、国連本部の他、スイス・ジュネーブとケニア・ナイロビにある地域事務所でも開催されている。

4月～6月＝各準地区・複合地区年次大会

日本は八つの複合地区、35の準地区で構成されている。毎年、4月から6月にかけて、これらの各地区年次大会が開催される。大会では次期地区ガバナーや副地区ガバナーの選出、各種会計報告の承認や、今後の地区の方向性に関するさまざまな決議が行われる。

各クラブは準地区大会、複合地区大会とも、会員10人ごと及び端数5人以上について、代議員1人及び補欠1人を派遣出来る。

4月＝環境保全認識月間、ファミリー& フレンド月間、レオクラブ認識月間

5月＝会員増強月間

6月1日＝ヘレン・ケラー・デー

1971年に国際理事会は、この年以降6月1日を、「ヘレン・ケラー・デー」として記念事業を行うことを宣言。この日、世界中のライオンズ会員が、視力関連の奉仕事業を実施することを推奨している。ヘレン・ケラー女史は1968年6月1日に87歳で亡くなっており、ヘレン・ケラー・デーは女史をしのんで始まった。

（注：ヘレン・ケラー女史に関しては第5章「アクティビティ」を参照。写真はヘレン・ケラー女史とサリバン女史）



なお、ライオンズクラブ国際協会の創設者であるメルビン・ジョーンズは、1961年6月1日に82歳で亡くなっており、くしくも6月1日は、メルビン・ジョーンズの命日にも当たる。

付録 ライオンズ用語集

ライオンズクラブに入会してまず戸惑いを覚えるのは、カタカナが多用される専門用語、いわゆるライオンズ用語だろう。発祥の地・アメリカで作られた会則や用語を日本語に翻訳するため、草創期のメンバーは並々ならぬ苦勞をしたことは想像に難くない。

この用語集には、ライオンズクラブの運営やアクティビティでよく用いられる用語や、ライオンズの組織や歴史を知る上で特に重要と思われる言葉などを網羅した。

[ア]

●アイバンク

角膜移植が円滑に行われるように、角膜をあっせんする公的機関。献眼の意志のある人が登録し、死後に提供があった場合には関係機関と連絡調整して、角膜移植待機者へあっせんする。全国のライオンズクラブは率先してアイバンク運動を展開している。

●アクティビティ=Activity

ライオンズクラブが地域社会などに対して行う奉仕活動のこと。地域社会のニーズに応じてさまざまなアクティビティが実施されている。

●アドボカシー=Advocacy

アドボカシーは「擁護・代弁」や「支持」「唱道」などの意味を持ち、特に弱い立場にある人の権利を擁護すること。ライオンズにおいては、地域社会のニーズに耳を傾けて重要な課題について声を上げ、地域の人々の認識を高め啓発して前向きな変化をもたらす活動。

●アポインティ

→国際理事会アポインティ

●アワード=Award

各種の賞のこと。ライオンズクラブの活動に特に顕著な活躍をした会員またはクラブに贈られる。地区ガバナー優秀賞、クラブ会長優秀賞などがある。

●アンバサダー・オブ・グッドウィル

→親善大使賞

[イ]

●石川欣一（1895～1959年）

1952年に日本で最初に結成された東京ライオンズクラブの初代会長。日本に地区（302地区）が設定された1953年に初代地区ガバナーに、1959年には日本初の国際理事に就任。草創期の日本ライオンズを指導した。国際理事就任から間もなく、1959年8月4日に急逝。

●一般社団法人日本ライオンズ

日本の330～337複合地区の情報交換を図り、共通の問題に対応して、ライオンズクラブの発展に寄与するため、2016年7月に設立された。

●インターナショナル・パレード

=International Parade

国際大会の公式プログラムとして催されるパレード。世界各国から大会に集った参加者が、国ごとに民族衣装やパフォーマンスに趣向を凝らして行進する。同時に、衣装や隊列の美しさなどを競うコンテストも行われ、大会期間中に結果が発表される。

●インド救ライ

1960年代に日本ライオンズが展開したインドのハンセン病患者救援事業。1959年5月の第5回年次大会の決議により、宮崎松記博士（後に熊本ライオンズクラブ会員）を調査に派遣したのに始まり、ライオンズの働きかけで全国的なキャンペーンに発展。1962年にアジア救ライ協会が設立、1967年にはインド・アグラにインド救ライ・センターが完成し、宮崎博士が院長に就任。1976年にインド政府に移管され、国立ライオンズ研究所となった。

[ウ]

●ウィ・サーブ=We Serve

ライオンズクラブのモットー。日本語訳は「われわれは奉仕する」。国際協会が「ライオンズを如実に物語り、各国語に翻訳可能で5語以内」という条件で公募し、1954年にカナダ・オンタリオ州フォントヒル・ライオンズクラブのステイブンソンの作品が採択された。

●運営委員会

クラブの運営に関する委員会。クラブ会長の職権により設置され、会則及び付則、財務、情報テクノロジー、指導力育成、会員、プログラム、マーケティングなどの委員会がある。

[エ]

●エクス・オフィシオ・メンバー

→職権委員

●エクスカーション=Excursion

クラブのチャーターナイト、地区年次大会、複合地区年次大会などにおいて、プログラムの一つとして行われる観光や親善旅行のこと。

●エクステンション=Extension

ライオンズを拡張（Extension）するという意味で、新クラブを結成することを言う。新クラブを結成する際には、クラブにエクステンション委員会を設け、結成後は2年任期のガイディング・ライオンまたは公認ガイディング・ライオンが新クラブの指導に当たる。

●エム・ジェイ・エフ (MJF)

→メルビン・ジョーンズ・フェロー

●エリア・フォーラム=Area Forum

会則地域ごとに開催するフォーラム。国際協会の目的と方針を促進、地区及びクラブ役員を指導教育、合同事業の可能性の探求や情報交換を行い、LCIFに対する理解と認識の向上を図る。決議はクラブまたは会員を拘束することは出来ない。

●エル・シー・アイ・エフ (LCIF)

ライオンズクラブ国際財団の略称。

→ライオンズクラブ国際財団

[オ]

●オークブルック=Oak Brook

アメリカ・イリノイ州シカゴ近郊の町。ライオンズ・インターナショナルの本部がある。

●オープニングアイズ・プログラム=Opening Eyes Program

知的障害者にスポーツの機会を提供しているスペシャルオリम्ピックス（SO）と提携し、SOの出場選手（アスリート）に無料で視力検査を行うプログラム。LCIF交付金事業。SOによるアスリートの健康推進事業「ヘルシー・アスリート・プログラム」の一つ。

●小川清司（1920～89年）

1989年度国際第一副会長。日本で2人目となる国際会長就任を目前に控えた1989年9月22日に逝去。1960年東京渋谷ライオンズクラブ入会。1980年度330-A地区ガバナー、1984～86年国際理事。1987年の台北国際大会で国際第三副会長に就任した。

●オセアル=OSEAL (Orient and South-east Asian Lions)

東洋東南アジア・ライオンズの英文の頭文字を取った略称。

→東洋東南アジア

●オセアル・フォーラム=OSEAL Forum

→東洋東南アジア・ライオンズ・フォーラム

[カ]

●会員維持=Membership Retention

会員の退会を防止すること。クラブの活動に対する興味と関心、参加意欲を高めて退会者を出さないようにし、クラブの活性化を図る。

●会員カード=Official Membership Card

ライオンズクラブ会員であることを証明するカード。LionPortalからダウンロード出来る。

●会員増強=Membership Development

新会員を増やし、会員の退会を防ぐなどして、組織を強化すること。

●会計年度=Fiscal Year

ライオンズクラブの会計年度は、毎年7月1日から翌年6月30日まで。

●会則及び付則

=Constitution and By-Laws

国際協会、複合地区、地区、クラブ及びレオクラブにそれぞれ設けられている規定。

●会則地域=Constitutional Area

国際会則では世界を八つの会則地域に分け、各地域ごとに国際理事の定員を定めている。

●ガイディング・ライオン=Guiding Lion

新結成クラブに必要な助力と指導を行い、地区や国際本部に新クラブの情勢を報告する。スポンサー・クラブの会員が選ばれる場合が多く、任期は結成から2年間。研修コースを受講し公認ガイディング・ライオン(38番)になることが出来る。

●学生会員プログラム

=Student Member Program

30歳以下の学生会員は国際会費が半額となり、入会時には入会費またはチャーター費が免除される。会員種別は特典会員で、代議員算出対象から除外される。30歳を超える学生会員は入会費またはチャーター費から10ドルの割引が受けられる。

●家族会員プログラム

=Family Membership Program

同居家族が同一クラブに所属する場合、1人目の会員は正規の国際会費を支払い、2人目以降5人目までは国際会費が半額になる。この制度の適用を受ける家族は、『ライオン誌』が1家族に1冊送付される。2人目以降の家族会員の会員種別は特典会員で、代議員算出対象から除外される。

●ガバナー

→地区ガバナー

[キ]

●キー賞=Key Award

国際協会から贈られる賞の一つで、2人以上25人までの新会員をスポンサーした会員には5人ごとに、25～100人は25人ごと、100～500人は50人ごとに、スポンサーした新会員数を表す数字の入った記念のラペルピンが国際協会から贈られる。

●キー・メンバー=Key Member

キー賞を受賞したメンバー。

●キャビネット=Cabinet

「地区ガバナー・キャビネット」のこと。構成員は地区ガバナー、前地区ガバナー、副地区ガバナー、リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、キャビネット幹事、キャビネット会計の他、地区会則及び付則で規定された会員。キャビネット幹事のことを地区幹事、キャビネット会計を地区会計とも呼ぶ。

●キャンパスクラブ

=Campus Club

結成に必要なチャーターメンバー20人のうち、5人以上の学生会員が含まれるクラブ。学生、教員、事務職員、同窓生、そして大学周辺の住民が共に奉仕するための手段となる。キャンパスクラブの会員は一般の会員と同様の権利と責任を持つ。

●協議会議長=Council Chairperson (CC)

複合地区ガバナー協議会の議長。着任時に現または元地区ガバナーでなければならない。複合地区会則及び付則が別の手続きを設けていない限り、その選任は、共に任期を務める複合地区内の地区ガバナーの会議で行われるべき、とされている。「CC」と略して用いられることがあり、元(Past)協議会議長の場合は「PCC」と略される。

[ク]

●グッドスタンディング=Good Standing

クラブについては、国際会則や付則を始めとする国際協会、地区の会則及び付則を遵守して運営されていること。ステータスクオ（活動停止）ではなく、以下を達成している。クラブ、地区（単一、準、複合）会費が完納されており、国際会費の未納分が10ドルを超えておらず、かつライオンズクラブ国際協会の口座に90日以上経過した未払い残高がない。グッドスタンディング・クラブでなければ、各種大会に代議員を派遣することは出来ない。

会員については、所属クラブの会則及び付則を順守していること。グッドスタンディング会員でなければ代議員になれず、クラブ、地区または国際協会の役員になることは出来ない。

●クラブ支部=Club Branch

5人以上の会員で、既存クラブの支部を設置出来るプログラム。クラブ支部の会員は既存の親クラブの会員だが、親クラブとは別の地域で例会を開いたり、奉仕活動を行うことが出来る。支部の会員には親クラブの正規の会員として全ての権利と義務が与えられる。

●グローバル・アクション・チーム =Global Action Team (GAT)

地区がその目標を達成出来るよう支援するためのネットワーク。国際協会と世界中の会員の架け橋となり、会員増強(グローバル会員増強チーム<GMT>/グローバル・エクステンション・チーム<GET>)、奉仕(グローバル奉仕チーム<GST>)、指導力育成(グローバル指導力育成チーム<GLT>)を支援する。日本においては女性及び家族チーム(FWT)も連携。クラブにおいては会長がファシリテーターを務め、チームには第一副会長(指導力育成委員長を兼任)、会員委員長、奉仕委員長が含まれる。

●グローバル・メンバーシップ・アプローチ= Global Membership Approach (GMA)

世界的な会員減少に対処する地区を支援するためのプロセス。2018年10月から20年6月までパイロット・プログラムとして実施された「北米会員増強イニシアチブ」の成果を受けて、会員増強の課題に取り組むための段階を追ったプロセスが構築された。2021-22年度は世界中で選ばれたパイロット地区で実施、2022-23年度から世界規模で展開された。地区の目標達成のためGATが支援に当たる。

[ケ]

●ゲスト・スピーカー=Guest Speaker

クラブ例会に招かれて講演、スピーチを行う会員以外の人物。会員がスピーチを行う場合は、メンバースピーチと呼ぶ。

●結成会

新結成クラブのチャーターメンバー予定者を集めて開く最初のクラブ例会。クラブ会則の採択、奉仕地域及び所属リジョンとゾーンの確認、クラブ役員の選出、入会金・会費の決定などを行う。

●献眼

角膜疾患による視覚障害者に角膜移植を行うため、死後に角膜を提供すること。献眼は各地にあるアイバンクを通じて行われる。

●献血

医療に必要な血液を、不特定の人のために無償で提供すること。国、地方公共団体、日本赤十字社が一体となって普及推進と、献血の受け入れを実施しており、多くの献血者やライオンズクラブを始めとする献血推進団体により支えられている。献血の種類には、成分献血、400ミリリットル献血、200ミリリットル献血がある。

●献腎

腎臓移植を希望している人のために、死後、

腎臓を提供すること。移植の仲介は日本臓器移植ネットワークを中心に行われ、臓器提供の意思表示の普及を進めている。また各地の腎バンクが登録受け付けや普及に取り組んでいる。

【コ】

●公益財団法人日本ライオンズ

2020年5月に、日本国内のライオンズクラブ会員有志によって設立され、国際協会の承認を受けて活動する財団法人。社会的弱者や生活困窮者への支援、青少年の健全育成などを目的に事業を行う。2023年11月に内閣府から公益財団法人の認定を受けた。

●公認ガイディング・ライオン

=Certified Guiding Lion

国際協会の公認ガイディング・ライオン・プログラムに基づき、地区ガバナーによって任命され、研修コースを修了した会員が認定される。任期は2年間で、地区内の新クラブの指導に当たる。

●公認指定業者=Official Supplier

国際協会の承認を得てライオンズ紋章付き用品を供給する業者。国際会則第4条2項により、国際協会及び公認指定業者以外からライオンズ紋章付き用品を購入することは出来ない。

●国際会長

=International President (IP)

国際協会の全ての大会及び理事会の会議の主宰者。協会の業務及び活動を監督する。第三副会長、第二副会長、第一副会長を務めた後に国際会長に就任する。副会長、国際会長は国際大会における無記名投票で選出される。日本人で国際会長を務めたのは、村上薫1981-82年度国際会長（第65代）、山田實紘2015-16年度国際会長（第98代）の2人。1990-91年度国際会長就任が予定されていた小川清司国際第一副会長は、89年9月に逝去した。「IP」と略して用いられることがあり、元(Past)国際会長の場合は

「PIP」と略される。

●国際大会

=Lions International Convention

ライオンズクラブ国際協会の年次総会。クラブから派遣された代議員による国際会則改正の賛否投票や、国際役員選出の選挙が行われる。公式プログラムとして3回の総会と各種セミナー、インターナショナル・パレードがあり、世界各国から集まった会員の交流の場ともなる。

●国際平和作文コンテスト=Lions International Peace Essay Contest

目の不自由な青少年に平和への思いを表現する機会を与えるコンテストで、2010-11年度に始まった。視覚障害を持つ11～13歳の子どもを対象に毎年のテーマに沿った英語の作文を募集。コンテストは各ライオンズクラブが主催し、クラブ、準地区、複合地区、国際の各レベルで審査を経て、大賞が選ばれる。

●国際平和ポスター・コンテスト=Lions International Peace Poster Contest

青少年に平和へのビジョンを表現する機会を与えるコンテストで、1988-89年度に始まった。11～13歳の子どもたちを対象に、毎年のテーマに沿って描かれたポスター作品を募集。コンテストは各ライオンズクラブが主催し、クラブ、準地区、複合地区、国際の各レベルの審査を経て優秀作24点が選ばれ、その中から大賞1点が選ばれる。

●国際本部=International Headquarter

世界中のライオンズクラブを管理する国際協会の本部事務局。アメリカ・イリノイ州オークブルックにある。

●国際理事=International Director (ID)

国際理事会構成員。定数35人の2年任期で、国際大会の代議員投票で偶数年に18人、奇数年に17人が改選される。立候補資格は地区ガバナー経験者で所属する準地区及び複合地区による推薦。会則地域ごとに定員がある。「ID」と略して用いられることがあり、元(Past)国際理

事の場合は「PID」と略される。

●国際理事会

=Board of International Directors

国際協会の執行機関として実質的な運営に当たる。国際会長、前国際会長、第一副会長、第二副会長、第三副会長及び35人の国際理事によって構成され、11の常設委員会が設置されている。年4回（国際大会直後、秋季＝10月または11月、春季＝3月または4月、国際大会直前）定例会議を開く。

●国際理事会アポインティ

=Board Appointee

国際会長によって任命された国際理事会の各種委員会の委員のこと。理事会での表決権は持たない。国際会長は年間6人以内、任期1年で元国際役員を任命出来る。

●国連ライオンズ・デー

=Lions Day with the United Nations

ライオンズクラブと国連との関係を深めるため、毎年3月にアメリカ・ニューヨークの国連本部や、スイス・ジュネーブとケニア・ナイロビの地域事務所で開催される。世界各国のライオンズ会員が参加し、著名なリーダーによる基調講演、専門家のパネル・ディスカッションなどが行われる他、国連本部では国際平和コンテストの授賞式が開かれる。

●骨髄移植

血液難病の人に、HLA（白血球の型）の一致した健康な人の骨髄細胞を点滴注入する治療法。骨髄移植のための仲介システムである骨髄バンクが、骨髄液を提供するドナーと患者のHLAを検査、登録をしておき、双方のHLAが一致した場合にコーディネーターが両者を調整して移植を行う。

●ゴング=Gong

例会開始を告げる鐘のこと。元来は例会での勝手なおしゃべりを注意し、鐘を打ち鳴らして静めるためのものだった。

[サ]

●賛助会員=Affiliate Member

現在のところ、クラブの正会員として全面的に活動は出来ないが、クラブとその奉仕活動を支持しており、クラブを賛助したい地域社会の優れた人物に与えられる会員籍。

[シ]

●ジー・エー・ティー=GAT

→グローバル・アクション・チーム。

●ジー・エム・エー=GMA

→グローバル・メンバーシップ・アプローチ。

●シカゴ=Chicago

ライオンズクラブ国際協会発祥の地。創設者メルビン・ジョーンズが全米各地の社交クラブに呼びかけて、1917年6月7日に27クラブの代表20人がシカゴに参集。ライオンズクラブ国際協会が創設された。メルビン・ジョーンズの所属クラブはシカゴ・セントラル ライオンズ^{クラブ}で、マザー・クラブと呼ばれている。

●事業委員会

クラブの事業に関する委員会。クラブ会長の職権により設置される。

●終身会員=Life Member

20年以上正会員であり、所属クラブ、その地域社会もしくは国際協会に対してその功績の著しい者、または15年以上正会員であり、少なくとも70歳に達している者、または病気が重篤である者は、本人が希望すれば、必要な手続きによって終身会員になることが出来る。

●視力ファースト=Sight First

1990年にスタートしたLCIFのプログラム。失明予防の専門家、WHO、各国政府、失明予防団体及びライオンズのボランティアが参加して、予防あるいは回復可能な失明を撲滅するための長期的な活動を展開している。

●準会員=Associate Member

一つのライオンズクラブの正会員となっている会員が、他の地域に住居や仕事場を持っていて、その地域のライオンズクラブでも活動したい場合、その地域のクラブから招請を受ければ、準会員として入会することが出来る。

●準地区=Sub-District

複合地区の一部を形成する1地区を言う。準地区は地区ガバナーを選出する。日本では330～337までの八つの複合地区があり、それぞれの複合地区はA・B・C・D・E・Fという名称の準地区で形成されている。準地区は日本全体で35ある。

●親善大使賞=Ambassador of Goodwill

国際会長から授与されるアワード、称号の中で最高の荣誉。顕著な貢献のあった会員に贈られる。

●人道支援大賞=Humanitarian Award

人類の繁栄に貢献があった人に贈られる権威ある賞で、国際大会で国際会長から授与される。通常はライオンズクラブ会員以外から選考されている。これまでにマザー・テレサ、ロナルド・レーガン米大統領などが受賞。日本人では大相撲の大鵬親方が受賞している。

[ス]

●スズラン給食

1965年(昭和40年)、岩手県の冷害に悩む山村の小学校の給食費に充てるため、盛岡ライオンズクラブが児童が採ったスズランの花を東京へ送り、東京近辺の26クラブが買い上げた。この経緯が『毎日新聞』の社会面に大きく取り上げられて反響を呼び、当時の佐藤栄作首相の目に留まって辺地校完全給食が実現した。

●ステータスクオ=Status Quo

活動停止の意味。クラブは次の場合に、国際協会からステータスクオ処分にされることがある。●協会の目的に背いたり、クラブ内紛争解

決の不成功、訴訟への関与等、ライオンズクラブとしてふさわしくない行動を取った場合。●クラブの定例会議を行わない、または3カ月以上連続して月例会員報告書を提出していない等、正クラブとしての義務の一つでも履行を怠った場合。●クラブが存在しない、あるいは架空のものである場合。●自主解散、あるいは合併する場合。

●スペシャルオリンピックス
=Special Olympics (SO)

知的発達障害のある人たちに、トレーニングと競技会を提供する国際的なスポーツ組織。LCIFとのパートナーシップにより、スペシャルオリンピックスの出場選手に無料で視力検査を行うオープニングアイズ・プログラムが実施されている。日本では2017年にスペシャルオリンピックス日本(SON)と一般社団法人日本ライオンズがパートナーシップを締結した。

●スペシャルティクラブ=Specialty Club

共通の関心や情熱を持つ会員により構成されたクラブ。共通項として例えば、趣味や職業、文化、共通の奉仕分野、あるいは人生経験などがある。

●スポンサー=Sponsor

新会員をクラブに推薦すること、また、その推薦を行った会員をスポンサーと言う。また、クラブが新クラブの結成を主力となって推進することもスポンサーという。この場合、このクラブはスポンサー・クラブと呼ばれる。更にユースキャンプ及び交換(YCE)においては、青少年を派遣する側のクラブもスポンサー・クラブと呼ばれる。

●スローガン=Slogan

ライオンズクラブ国際協会のスローガンは、「自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる(Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety)」。1919年の第3回国際大会で、頭文字の組み合わせがLIONSになるという演説が行われ、その後スローガンとなった。

[セ]

●正会員=Active Member

ライオンズクラブ会員であることから生じる全ての権利を持ち、義務を負う会員。規定の資格を満たせば、あらゆるレベルの役員になることが出来、あらゆる事項に対する投票権がある。例会出席や、速やかな会費納入、活動への参加、ライオンズクラブが良い印象を与えるような行動の義務がある。

[ソ]

●ゾーン=Zone

地区ガバナーは地区管理のため、地区内をいくつかのリジョンに分け、更にリジョンを4〜8のクラブから成るゾーンに分けることが出来る。ゾーンごとにゾーン・チェアパーソンが、地区ガバナーによって任命される。

●ゾーン・チェアパーソン
=Zone Chairperson (ZC)

地区ガバナーによって任命され、地区ガバナー及びリジョン・チェアパーソンの指導監督の下、ゾーンの責任者としてその運営に当たる。

●ソング・リーダー=Song Leader

例会や各種催しでライオンズ・ソングなどの歌を参加者が気楽に歌えるように音頭を取る会員。

[タ]

●代議員=Delegate

クラブの任命を受けて、国際大会、複合地区大会、地区大会などに出席して議案について表決する。国際大会へは会員25人ごとに1人及び

端数13人以上に1人の代議員及び補欠を出席させることが出来る。複合地区大会及び地区大会へは会員10人ごとに1人及び端数5人以上に1人の代議員及び補欠を出席させることが出来る。

●タブ=Tab

ライオンズ・ピンに併用されるもの。地区委員長タブ、終身会員タブなどがある。有料。

●単一地区=Single District

1人の地区ガバナーを選出出来る一定の地区で、複数の地区の集合体である複合地区に対して、単一で存在する地区を言う。日本は1959年に302-E、302-Wの2地区に分割される以前は、302地区という単一地区だった。

[チ]

●地区ガバナー=District Governor (DG)

国際協会役員。地区年次大会で地区ガバナーエレクト (District Governor-Elect<DGE>) として選出され、国際大会で地区ガバナーに就任する。地区運営の責任者としてキャビネット構成員を指導し、任期中に地区内のクラブを公式訪問する。任期は国際大会の閉会時から次の大会の閉会時まで。連続再選はない。「DG」と略して用いられることがあり、元 (Past) 地区ガバナーの場合は「PDG」と略される。

●地区ガバナー公式訪問

=District Governor's Official Visit

地区ガバナーが任期中に地区内全クラブを公式に訪問すること。地区ガバナーはクラブに対し地区運営の基本方針を説明すると共に、クラブ運営について直接指導監督する職責がある。

●地区ガバナー諮問委員会 = District Governor's Advisory Committee

ゾーン・チェアパーソンを議長とし、ゾーン内のクラブ会長及び幹事で構成される地区ガバナーの諮問機関。少なくとも年3回の定例会議を開く。

●チャーター=Charter

認証、認証状。新結成されたクラブは国際協会の一員としてチャーター（認証状）を贈られ、その日から国際協会の会員となり、全ての権利と義務が与えられる。

●チャーターナイト=Charter Night

認証状伝達式。チャーターの伝達は地区ガバナーが国際協会を代表して行うのが通例。ブラザー・クラブなどが招かれて祝意を表し、新クラブはチャータークラブとしての宣誓を行う。

●チャーター費=Charter Fee

クラブ結成の時にチャーターメンバーが国際本部へ納める費用。1人当たり35ドル。転籍チャーターメンバーは20ドル。

●チャーターメンバー=Charter Member

クラブ結成の際の創立会員。結成後90日以内にクラブに入会した会員は、チャーター費を払ってチャーターメンバーとして登録することが出来る。

【テ】

●テール・ツイスター=Tail Twister

クラブ役員の1人。例会などの会合でゲームや余興など種々のアイデアによって会合を盛り上げ、会員間の親睦を図る。会員にファインを課す権限が与えられている。1998年からその設置は任意。

●転籍=Transfer

会員が他クラブへ移籍すること。前クラブを退会時にグッドスタンディングであり、転籍先のクラブ幹事に転籍会員用書類を提出し、その理事会で承認される必要がある。退会していた期間が12カ月を超える場合には、クラブ会則3条2項の規定に従った承認が必要になる。

【ト】

●東洋東南アジア(会則地域)

=Orient and Southeast Asia

国際協会は世界を八つの会則地域に分けており、東洋東南アジアは日本が所属する第5会則地域。「東洋東南アジア・ライオンズ」のローマ字の頭文字を取ってOSEAL^{オセアル}と略される。日本、韓国、台湾、中国（香港、マカオを含む）、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、グアム、サイパン、モンゴル、カンボジア、ブルネイ、ミクロネシア諸島、ミャンマー、マーシャル諸島（2025年6月末現在、会員数の多い順）の国及び領域で構成される。

●東洋東南アジア・ライオンズ・フォーラム=Orient and Southeast Asian Lions Forum

東洋東南アジア地域内のクラブを代表する参加者が集い、ライオンズクラブ国際協会の目的と目標の促進、地区及びクラブ役員の指導・教育、奉仕活動についての情報交換や、LCIFに対する理解と認識の向上を図る。OSEAL^{オセアル}フォーラムとも呼ばれる。毎年10～11月ごろに開催。

●道徳綱領=Code of Ethics

ライオンズクラブ会員としての基本姿勢、準拠すべき事項を述べたもの。職業の尊さ、事業の成功を前提として、他人への思いやり、目的としての友情、公民の義務、批判精神の保持を明文化している。

●特典会員=Discounted Member

家族会員、学生会員、レオライオンなど、国際協会が提供する会員プログラムに参加し、減額された会費を支払う会員。正会員と同じ権利を持つが、クラブ代議員数算出の対象にはならない。

●ドネーション=Donation

会員の慶事、誕生、結婚、入学、新築、病気快癒や、弔意、見舞いなどに対する謝礼、その他の意をもって、会員が自発的に行う寄付のこと。金額に制限はない。テール・ツイスターはいろいろな事実を紹介して、会員がドネーションを行うのを助ける。ドネーションをする会員はアクティビティに使用されることを期待して

いると考えられるので、原則として事業資金に繰り入れる。

[ニ]

●認証状

→チャーター

[ネ]

●年次大会=Annual Convention

準地区は国際大会開催日の30日以前、複合地区は15日以前に完了するように年次大会を開催する。準地区はこの大会で地区ガバナーを選出する。複合地区の大会では国際協会への提案事項を決議することが出来る。

[ハ]

●白杖=White Cane

1930年、アメリカ・イリノイ州ピオリア ライオンズクラブのジョージ・A・ボナム会長の提案で、同クラブが視覚障害者の歩行を助ける白杖を配布し、この活動が全米の各クラブに広がった。これが世界各国で白杖が使用されるようになる発端の一つとなった。

●バナー=Banner

正式クラブ旗。各クラブの創意工夫で作られるテーブル・バナー及びフレンドシップ・バナーもバナーと呼ばれる。国内外の他クラブとの友好親善を目的に交換する習慣がある。

●パッチ=Patch

バナーに付ける布。クラブを顕彰するために国際協会から交付される。チャーター・アニバーサリー・パッチなど各種ある。

[ヒ]

●ビジター=Visitor

クラブ例会を訪問した他クラブの会員。参加した例会の例会費を支払う。メーク・アップの場合は欠席した自クラブの例会費をこれに振り替えることが出来る。

[フ]

●ファイン=Fine

例会その他の会合において、その場の空気を沸き立たせ会員相互の親睦を図る目的で、テール・ツイスターによって科せられる罰金。クラブ会則標準版によると、1回のファインはクラブ理事会で定める額で、同一例会で同一会員から2回を超えて科せられない。ファインは運営費に繰り入れる。

●フォーラム=Forum

→エリア・フォーラム

●複合地区=Multiple District (MD)

複数の準地区の複合体。複合地区ガバナー協議会によって運営される。

●複合地区ガバナー協議会

=District Governors Council

複合地区内の全ての地区ガバナー及び追加構成員によって設けられる機関。議長は現・元地区ガバナーが務め、副議長、幹事、会計を互選する。年3回の定例会議を開催。複合地区の運営管理、役員の選任などを行う。

●副地区ガバナー=Vice District Governor

地区ガバナーの首席補佐役として地区ガバナーの仕事を研修し、次期地区ガバナーとして任務を支障なく達成出来るように設けられた職。通常、地区年次大会において選出される。2025年7月の国際会則及び付則の改正により、第一、第二副地区ガバナーは同じクラブに属さないことが定められた。

●不在会員=Member-at-Large

クラブ所在地からの転出、または健康その他の正当な理由により規則正しい例会出席が出来ないが、本人が在籍を希望し、理事会の承認を

受けた者。役職に就く権利、投票権はない。会費納入の義務を負う。不在会員の資格は6カ月ごとに理事会で再検討される。

●プロトコール=Protocol

外交儀礼。席順を含めた賓客の接待、式典などについての約束事。

[ヘ]

●ヘレン・ケラー (1880～1968)

=Hellen Keller

三重苦の聖女と呼ばれる。1925年アメリカ・オハイオ州セダーポイントで開かれた国際大会にゲストスピーカーとして招かれ、ライオンズに対し「暗闇と戦う盲人のための騎士になってください」と訴え、ライオンズクラブが視力関連事業に重点を置くようになるきっかけを作った。同大会参加者の満場一致で名誉会員として承認された。

[ホ]

●ホスト・クラブ=Host Club

年次大会を始め各種会合や催しを主催する主人側のクラブ、ユースキャンプ及び交換(YCE)生受け入れ側のクラブのこと。また、同一市内に多くのクラブがある場合、最古のクラブは国際協会の認可に基づき〇〇ホストライオンズクラブと名乗ることが出来る。

●ホスト・ファミリー=Host Family

YCE生を受け入れる家族のこと。ホスト家庭。ライオンズ会員家族が望ましいが、限定されるものではない。来日生を家族の一員として日常を共にし、生活を通じて相互理解を図る。

[マ]

●また会う日まで=Till We Meet Again

原曲はレイモンド・イーガン作詞、リチャー

ド・ホウィティング作曲で1918年発表。そのメロディーにジェリー・S・ジャクソンがライオンズ版の歌詞を付けた。訳詞は「ライオンズ・ヒム」と同じく葛野作太郎(兵庫県・神戸ライオンズクラブ)。

[ミ]

●宮崎松記 (1900～1972年)

1959年、第5回地区年次大会で日本ライオンズの合同事業としてインド救ライの推進が決議され、宮崎松記博士(後に熊本ライオンズクラブ)がインド救ライ事業調査のために派遣された。博士は6カ月の視察の後、インド政府への勧告を行い、専門病院の建設にも携わり診療を続けた。1972年、日本からインドへ向かう航空機の事故により急逝。

[ム]

●村上薫 (1917～82年)

1981年度国際会長。第64回フェニックス国際大会で東洋人として最初の国際会長に就任した。「People at Peace= みんなで築こう和の社会」を掲げ、世界に和の精神を訴えた。国際会長として初めて国連から国連平和賞を受賞。1954年京都ライオンズクラブ入会。1964年度302W-5地区ガバナー。1975～77年国際理事。

[メ]

●メイク・アップ=Make-up

自クラブの例会に出席出来ない場合、一定の条件を満たせば出席と見なす、メイク・アップという制度を設けている。

●名誉会員=Honorary Member

クラブ会員以外で、クラブが所属する地域社会またはクラブのために著しい貢献をし、クラブが名誉会員の称号を与えることを希望した

者。入会金、会費はクラブが負担する。会合に出席出来るが、正会員の持つ権利はない。

●名誉顧問

=District Governor's Honorary

地区ガバナーが任命し、主に地区ガバナーを務めた者が就任する。国際協会の正式な役職ではないが、日本では広く設けられている。定員数は地区ガバナーが決定。地区行政円滑化が目的で、地区名誉顧問会議の招集は地区ガバナーの承認を得て、地区名誉顧問会議長が行う。

●メルビン・ジョーンズ(1879~1961年)

=Melvin Jones

ライオンズクラブの創設者。アメリカ・アリゾナ州に生まれる。シカゴで保険代理店を経営していた1917年、アメリカ各地の27の社交クラブ代表者を招集してライオンズクラブを設立。82年の生涯において全精力をライオンズに捧げた。1958年、国際理事会から創設者総幹事という終身称号が贈られた。

●メルビン・ジョーンズ・フェロー

=Melvin Jones Fellow (MJF)

LCIFに1,000ドルまたは相当額を寄付した個人、指定を受けた個人に贈られる称号。LCIF最高の栄誉であり、寛大さ、思いやり、気遣いなどを象徴するもの。

[モ]

●モットー=Motto

「We Serve (われわれは奉仕する)」。このモットーは1954年、国際協会が募集したコンテストの応募作の中から、カナダ・オンタリオ州フォントヒル ライオンズクラブのライステーパーンソンの作品が採択されたもの。

[ヤ]

●山田實紘(1943年~)

2015年度国際会長、2016年度ライオンズク

ラブ国際財団(LCIF)理事長。第98回ホノルル国際大会で日本から2人目の国際会長に就任。「Dignity. Harmony. Humanity.= 命の尊厳と和」の国際会長テーマを掲げ、特に子どもの尊厳を守る活動を提唱した。1985年岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブ入会。1996年度334-B地区ガバナー。2005~07年国際理事、2011-12年度国際理事会アポインティ。2018年7月から22年6月にかけて実施されたLCIFキャンペーン100の国際委員長を務めた。

[ユ]

●優待会員=Privileged Member

15年以上クラブ会員であり、病気、虚弱、老齢その他クラブ理事会が認める正当な理由により、正会員であることを放棄した者。投票権を持つが、役員になることは出来ない。会費納入の義務がある。

●ユースキャンプ及び交換(YCE)

=Youth Camp and Exchange

各国の青少年が参加するキャンプやホームステイ体験を通じて、次代を担う青少年の国際的な視野を広め、相互理解の精神を培う。青少年交換は1961年、兵庫県神戸市とアメリカ・カリフォルニア州の日米学生交換がきっかけに始まり、ユースキャンプは1963年にスウェーデンのライオンズクラブが開始した。1974年にそれぞれ国際プログラムとして採択され、2007年に両プログラムが統合された。

[ラ]

●ライオニズム=Lionism

最も崇高な人道的奉仕の理想に専念するライオンズという共同体の連帯の意識を指す。国籍、主義の異なる、また国境や海や迷信などで引き離された人々をつなぎ合わせて、より良い世界へ導こうとする信念。

●ライオン=Lion

ライオンズクラブ会員のこと。会員の資格は「善良な特性の持ち主で、地域社会において声望のある成人」。

●ライオン・テマー=Lion Tamer

クラブ役員の1人。クラブ諸備品の整備、保管、会場設営などの職責がある。会合中は会場の秩序を維持し、必要な印刷物や記念品などを配布する。新会員が早くクラブになじめるように席順などにも気を配る。2002年からその設置は任意となった。

●ライオン誌=LION

国際本部が発行する公式雑誌（北米版・スペイン語版）及び国際理事会の全面的な統括監督の下に発行される公式機関誌。グッド・スタンディングの会員が5,000人以上に達した地域では国際理事会の承認を得て、その地域独自の雑誌を発行することが出来る。2025年10月現在、19カ国語、34版。

●ライオン誌日本語版=LION in Japan

国際協会公式機関誌の日本語版として日本の会員向けに発行されている。創刊号は1958年8月に発行部数4,500部で発刊された。長く月刊誌として発行されてきたが、国際協会のデジタル化推進に伴って2018年1月から「ライオン誌日本語版ウェブマガジン」を開始し、印刷版は年6回、2023年1月からは年4回の発行になった。「理事会方針書 第16章ライオン誌」に基づき設置されたライオン誌日本語版委員会が編集と運営に当たり、国際協会補助金と一般社団法人日本ライオンズの賛助会費の一部で発行されている。

●ライオン誌日本語版ウェブマガジン
=LION in Japan Web Magazine

インターネット上での公開しているライオン誌日本語版。全国のクラブが取り組む奉仕活動を伝える記事と動画の他、創刊号以来のバックナンバーの閲覧、各種資料のダウンロードなど、デジタルの特性を生かした情報が盛り込ま

れている。

●ライオンズ・インターナショナル
=Lions International

ライオンズクラブ国際協会とライオンズクラブ国際財団の二つの組織を合わせたマスターブランドとして、2023年に正式に発表された。ライオンズの奉仕について一貫性のあるメッセージを発信するのが目的。二つの組織を指す名称で、協会と財団は従来通り別組織として運営される。

●ライオンズ・カラー=Lions Color

ライオンの体を彩る金色と、王者の権威を示す紫。1917年、アメリカ・テキサス州ダラスで開催された第1回大会で決定した。

●ライオンズクエスト=Lions Quest

LCIFのライオンズクエスト交付金を拠出して促進している、青少年のライフスキル（生きる力）を養うための教育プログラム。1984年、ライオンズクラブはクエスト・インターナショナルとパートナーシップを結び、ライオンズクエスト・プログラムを導入。2002年に同プログラムを買い取った。

●ライオンズクラブ国際財団=Lions Clubs international Foundation (LCIF)

人類の福祉に貢献することを目的に、1968年にライオンズクラブ国際協会によって設立された非営利法人。ライオンズ会員あるいは一般から寄せられた寄付を基金とし、LCIF交付金として活用することで、ライオンズクラブや地区が個別に行う奉仕よりも規模の大きな活動を実施することが出来る。

●ライオンズクラブの歌

藤浦洸作詩、古関裕而作曲による日本ライオンズ独自の歌。1959年、京都で開催された第5回年次大会で披露されて以来、例会などで歌い続けられている。

●ライオンズクラブの目的

1917年テキサス州ダラスで開かれた第1回大会で起草され、1919年の第3回大会で正式に決

定した以下の6項目。「世界の人びとの間に相互理解の精神をつちかい発展させる」「よい施政とよい公民の原則を高揚する」「地域社会の生活、文化、福祉および公德心の向上に積極的関心を示す」「友情、親善、相互理解のきずなによってクラブ間の融和をはかる」「一般に関心のあるすべての問題を自由に討論できる場を設ける。ただし、政党、宗派の問題をクラブ会員は討論してはならない」「奉仕の心を持つ人びとが個人の経済的報酬なしに社会に奉仕するようはげまし、また、商業、工業、専門職業、公共事業および個人事業の能率化をはかり、道徳的水準をさらに高める」

●ライオンズ・デー=Lions Day

→世界ライオンズ奉仕デー

●『ライオンズ必携』

一般社団法人日本ライオンズが発行する、ライオンズクラブの目的、道徳綱領、スローガンを始め、国際協会の沿革と組織、更に各種会則ほか、ライオンズクラブに関するさまざまな情報を網羅した手帳サイズの冊子。1963年初版。

●ライオンズの誓い

「われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する」。ライオンズクラブを端的に説明する標語として、1960年、第6回年次大会で採択された。新会員は入会式でこの誓いを宣誓する。

●ライオンズ・ローア=Lions Roar

ライオンズの雄たけび。会議の眠気や疲労を一掃するため、議事を中断し、全員起立、両手を前方水平に突き出して「ウォーッ」と叫んだのが始まりとされる。

●ライオンズの紋章

1920年に決定。Lの字を真ん中に2匹のライオンの頭部が左右を向いて配置され、上部にLIONS、下部にINTERNATIONALの文字がある。Lは法(Law)、自由(Liberty)、労働(Labor)、忠誠(Loyalty)、愛(Love)、生命(Life)、そしてライオン(Lion)を象徴し、2頭

のライオンは輝かしい過去の歴史と未来を見つめている。2008年に国際協会のブランド・リニューアル計画に伴い、印刷やデジタル化に適するように刷新された。

●ライオンズ・ヒム=Lions' Hymn

アメリカの会員、ジョセフ・M・ティンケル作詞、フランシス・H・バクスター作曲。葛野作太郎（兵庫県・神戸ライオンズクラブ）訳詞。「ライオンズクラブの歌」と同じく、例会などで歌われている。

●ラペル・ピン=Lapel Pin

襟章。ライオン・バッジとも呼ばれる。襟の折り返し部分（ラペル）に付けるライオンズの正章。一般会員用、クラブ役員用、地区役員用などがある。

【リ】

●リーダーシップ=Leadership

指導力。国際協会は、個々の会員のリーダーシップ育成はクラブ、地区、ひいてはライオンズクラブそのものの強化拡大に不可欠であるとして、1970年代半ばからこれに力を注いでいる。国際協会主催の研究会や、各複合地区及び地区主催のセミナーなども開催されている。

●リジョン=Region

地区ガバナーは地区管理のため、地区内を二つ以上のゾーンからなるリジョンに分けることが出来る。地区ガバナーがリジョン・チェアパーソンを任命した場合、リジョン・チェアパーソンがその運営に当たる。

●リジョン・チェアパーソン

=Region Chairperson (RC)

地区ガバナーによって任命され、地区ガバナーの指導監督の下、リジョンの責任者としてその運営に当たる。

●リテンション

→会員維持

[レ]

●例会=Regular Meeting

クラブの最高議決機関であり、会員同志の友好と連帯を強める場。毎月一定の日時を決めて開催する。クラブの会員が決定した奉仕事業またはその他の催しに置き換えることが出来る。クラブは毎月少なくとも1回、会議、催し、もしくは奉仕活動を行うことが奨励される。

●レオクラブ=Leo Club

スポンサー・ライオンズクラブの管理の下、レオクラブ委員会が適当と認めた青少年男女によってクラブの所在する地域に組織され、活動を行う。青少年に指導力 (Leadership)、経験 (Experience)、機会 (Opportunity) を与え、個性豊かな人間に成長させるための奉仕活動を推進し、会員間に友情、親善、及び相互理解の精神を育成するのが目的。レオクラブ会員がライオンズ会員になった場合、その在籍年数等の実績がライオンとしてのそれに加えられる。

●レオ・デー=Leo Day

1979年、80年の各複合地区大会において、3月の第3日曜日を日本レオ・デーとすることが決議された。その後国際理事会によって、世界で最初のレオクラブが結成された日 (12月5日) を国際レオ・デーとすることが決議されたが、日本レオ・デーは時期的にも適当であるとの理由で存続している。この日は奉仕活動やPRが広範囲にわたって実施される。

●レオライオン・プログラム

=Leo-Lion Program

レオクラブに少なくとも1年と1日在籍しており、法律上の成人年齢に達しかつ35歳以下の現レオ及び元レオは、レオライオン会員として奉仕を続けることが出来る。国際会費は半額、入会金またはチャーター費は全額免除される。レオクラブの在籍年数はライオンズ会員の記録に加算される。会員種別は特典会員で、代議員算

出対象から除外される。

[ロ]

●ロバート議事規則=Robert Rules

ライオンズクラブにおけるあらゆる議事の進行はロバート議事規則に基づく。アメリカの将軍、ヘンリー・M・ロバートがアメリカ議会の慣習を中心に議事進行規則を集大成、成文化したもの (1876年初版、1915年改訂) で、安定数順守、多数決、少数意見尊重を原則とし、会議における発言、議長の権限、討議の方法などが定められている。

[ワ]

●YCE (ワイ・シー・イー)

→ユースキャンプ及び交換

ライオンズ・スクール

ライオンズクラブ入門

2025年11月20日改訂

2025-26年度ライオン誌日本語版委員会

国際理事 仁科 良三

田名部智之

委員長 廣田 晃一 (333複合地区)

副委員長 水沼 孝夫 (333複合地区)

編集長 洲野二三世 (337複合地区)

委員 田中 明 (330複合地区)

馬場 哲也 (331複合地区)

岡田 殉 (332複合地区)

後藤 一男 (333複合地区)

前田 磨 (334複合地区)

秋山洋一郎 (335複合地区)

山田 隆嗣 (336複合地区)

編集 一般社団法人日本ライオンズ・ライオン誌日本語版委員会

〒104-0031

東京都中央区京橋1-2-4 八重洲ノリオビル5階

TEL:03-6674-8777 FAX:03-6674-8781



LION

ライオン誌日本語版ウェブマガジン

<https://www.thelion-mag.com>



いつでも豊富な情報を

- 全国各地のクラブによる特色ある奉仕活動を取り上げた「取材レポート」や「国際会長メッセージ」などの主要記事は、毎月1日に公開しています
- クラブや地区からの投稿は「奉仕活動」の「投稿レポート」に掲載
- 「トピックス」では国際協会発信の情報や国内の話題を取り上げます
- 「バックナンバー」の「ライオン誌印刷版」では、創刊号(1958年7-8月号)以降の全号がEPUB形式で閲覧出来、記事のキーワード検索も行えます
- 「情報資料」には最新のクラブ数・会員数データなどの各種資料や、国際協会ウェブサイトへの便利なリンクがあります

投稿募集中

奉仕活動——投稿レポート

- 地区やクラブが実施した奉仕活動のレポートを募集しています
- ウェブマガジン「会員向け」→「投稿」にある投稿フォームに必要事項を記入の上、原稿(600字以上)と写真データを送信してください
- 投稿は出来るだけ活動終了から1カ月以内にお願します

獅子吼

- ライオンズクラブ及びレオクラブ会員のエッセーや提言を募集しています
- 原稿文字数は1,000~1,600字程度
- 投稿はEメール(edit@thelion.jp)でお寄せください



ライオン誌LINE公式アカウント 友だち募集中!